



# ウィンターカップ2024静岡県予選 大会展望

文：中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

第77回全国高校バスケットボール選手権大会(ウィンターカップ2024)静岡県予選が令和6年10月19日に開幕する。11月10日に静岡県武道館で県代表が決まり、12月23日から聖地・東京体育館および武蔵野の森総合スポーツプラザで行われる全国選手権大会へ出場する。昨年は男子の出場枠が1枠増えたため男子のみ決勝リーグ制で行われたが、今年は男女とも1枠、従来通り完全トーナメント制での実施となる。組み合わせがどうであれ、1番強いチームのみが全国切符を手にすることとなる、まさに駆け引きなしの最強チーム決定戦となる。

今年の夏は高校バスケが大いに盛り上がった。インハイでは藤枝明誠がベスト8、浜松開誠館がベスト16、今年度国民体育大会から名称変更し10月に佐賀県で第1回が行われる国民スポーツ大会への出場権を賭けた東海国スポでは高2の早生まれと1年生を主体としたU16の少年男女が激戦区・東海を勝ち抜き出場権を勝ち取った。特に少年男子は愛知・岐阜との三つ巴をゴールアヴェレージ(得失点率)で制し優勝、国スポ出場に華を添えた。さらに9月に開幕したU18日清食品トップリーグには藤枝明誠が2年連続で選出され全国でたった8チームしか参加できない大会で毎週全国の強豪と火花を散らしている。同じくU18日清食品東海ブロックリーグには男子沼津中央・浜松開誠館、女子浜松開誠館・市立沼津が会場、東海地区各地で熱戦を繰り広げ、9月には開催3年目にして初めて県内でも試合が行われた。強豪チームとの戦いを通じて静岡県高校バスケの総合力が上がっていることは間違いない。

今年も県武道館シリーズから試合球としてモルテン製12面体球を使用する。昨年に続いての使用となるが、すでに国際大会でもお馴染みでU18でもすべての全国大会でこの白いラインが描かれたボールを使っている。ただ明らかに従来の8面体球と感触が違うので、県武道館を目指すチームはこのボールへの対応もきちんと行っておくべきである。

夏に行われた『2024パリ・オリンピック』では48年ぶりに男女が揃って自力出場を果たし、惜しくも男女とも決勝T進出は逃したが応援している側に夢と勇気と希望を与えてくれた。特に男子日本代表の「日本-フランス」戦は手に汗握る戦いでテレビに釘付けとなり、第4Q残り30秒で4点差、誰もが勝ったと思った瞬間フランスの執念に屈し惜しくも敗れたが、多くの国民がこの試合を観戦し勝利という目標に向かってひたむきに戦う日本代表の姿に涙した。このバスケ人気を一過性のものに終わらせないためにも全カテゴリーでバスケを盛り上げ続けなければならない。

大会展望の執筆に際して、毎回私の右腕として職務を果たしてくれている山口裕史県協会広報副委員長と左腕となってくれている三宅凌広報委員に多大な御尽力を頂いている。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、将来的には私の後継者になって県バスケ広報活動を牽引してくれることを願っている。

## 男子

昨年ウィンター3位、今年のインハイでもベスト8、その実績を評価され今年もトップリーグに選ばれた藤枝明誠が文句なしの優勝大本命である。それを東海総体・東海リーグにも出場して強豪との戦いで経験値を上げた沼津中央・浜松開誠館が賜杯奪回に挑む構図が予想される。

左上のブロックは、藤枝明誠が圧倒的な強さを誇ることは言うまでもないが、県総体7位・令和4年度県新人から5大会連続で県ベスト8を堅持する公立の雄・浜松西が県武道館で藤枝明誠に挑む構図が予想される。

藤枝明誠は今年も県新人・県総体を制し、令和4年の県総体以来高校大会7連覇中、県内の連勝も52に伸ばした。東海新人・東海総体と美濃加茂に連敗したが、インハイでは強豪・近大附属や八王子学園八王子に完勝、準々決勝では昨年のウィンター王者・福岡第一と序盤からお互い点差が5点と離れない大接戦、終始優位に試合を展開していたが土壇場で追いつかれオーバータイムへ、延長でも手に汗握る一進一退の攻防を繰り広げ惜しくも3点差で敗れたが全国の頂点を極めるだけの戦力は整っている。戦術面でも金本鷹監督の徹底した「考えるバスケット」が浸透、昨年のウィンター・開志国際戦、残り5秒で見せた「リードしているチームが時間を消費させて逃げ切るためにファウルゲームを仕掛ける戦術」を見事実行したチームの底力には驚かされた。机上の論理では可能でも、プレッシャーや疲労感そして相手もその戦術を見透かしている可能性もあるなかで、指導者そして仲間を信じて選手たちが見事遂行したところに真の強さを見た。大会3連覇に死角はなく目指すは全国制覇の四文字である。

中心となるのは来日以来中心としてチームを牽引、今年からゲームキャプテンも兼ね卓越した個人技だけでなく全体も掌握したチームバスケに舵を切り始めた209cmナイジェリア留学生・ボヌロードプリンスチノソ。高さや力強さを生かしたバ



スケはすでに語り尽くした。近大附属戦で見せたド迫力スラムダンクはまさに芸術品、ジャラマイヤ（日本航空）・フェイバー（美濃加茂）など一級品の留学生が集う全国の中でも頭一つ抜けた実力を見せた。唯一の心配事は脱臼を繰り返す肩の状態である。昨年もウインター予選前に肩を脱臼、痛みを押して出場を続けてきたものの東海総体で再度脱臼、インハイには出場したが怪我の影響がなかったと言えは嘘になる。脱臼は癖になりやすくそれを本人も十分理解しながら細心の注意を払いプレーしているが、こればかりは相手もあること、夏休みには短期間ではあるが心身のリフレッシュやオーバーホールも兼ねて来日以降初めて帰国、家族との再会は「最良の薬」となったはずである。「無事、これ名馬」の格言どおりに高校最後の大会でいつも以上に観客を魅了するプレーを見せて欲しい。191cm**野津洸創**は高さを生かしたプレーだけでなく上手さと速さ、クレーバースを併せ持つ。外でボールを持つ仲間に合わせて絶妙に裏パスを誘いそのままバックシュートで放つ名人芸も披露、チーム事情でガードポジションのプレーが増えたがスムーズにアジャストして自らショットクリエイイトする天才、リバウンドからフィニッシュまでの所要時間はまばたきしている暇もないくらいの短さ、インハイでは留学生相手にも躊躇なくブロックショットを決めますます手の付けられないプレーヤーとなった。何ととっても生粋の司令塔・**野田凌吾**が前十字靭帯断裂の大怪我から完全復調、長い時間ゲームメイクを任せられるようになったことは相当な戦力の底上げと言える。168cmの小柄ながら視野の広さやボール運び、パスワークなどすべてに優れ、インハイではチームが苦しい時間帯に自ら得点を重ねるシーンがよく見られ、流れを呼び込むプレーに磨きもかかった。マネージャーとしての経験を糧に今年プレーヤーとして全国に挑む。この夏、一番の成長を見せたのが**篠原遼太**。この選手こそ縁の下力持ち、真骨頂は力強いリバウンド、福岡第一戦では12リバウンドを記録、特にオフェンス時に天賦の才能を発揮しセカンドチャンスを作り出す。ランニングプレーにも磨きがかかり、非常に重宝するユーティリティーである。インハイ3試合でスタメン出場した**柴田陽**は相手エースを標的にとらえ、時に脚を巧みに使ったフルフロントでも守るストッパー、攻撃では効率よく決まる3Pとレイアップが魅力、攻と守のバランスが「黄金比」のプレーヤーと言える。ゴールデンキーの**渡邊聖**はインハイでの活躍が全国でも取り上げられた大物、度胸の良さは逸品で強心臓のビックショットを連発してクラッチタイムでの勝負強さを見せた。福岡第一戦では最終盤に託されたタフショットを打ち切れず誰よりも悔しい思いをした。徹底マークが予想される今大会、我々の心配が杞憂となるような活躍を願い今から胸が躍る。留学生200cm**アマーエマニュエル・ネメル**はロードプリンスとオンザコートワンでタイムシェアしながらの出場、休息を与える目的やファウルトラブルだけでなく、監督が直接プリンスに指示を与えたい時にも彼が代役を務めて十分にその重責を果たしてくれるのが大きい。プリンスが帰国中のトップリーグは代わりにフル出場、1on1にも果敢にチャレンジし相手に対応してきたら裏へと切れる野津やウイングから切れ込む篠原への見事な合わせも見せた。相手が寄りすぎたところを見逃さない洞察力も素晴らしく、留学生2人を効果的に活用できることでまた一段と総合力が上がった。その他にも、途中出場ながらインハイ全戦に出場、国スポにも出場した長身192cm**永田貴陸**、素早いノールックや俊敏に走りワイドオープンを創り出してドライブする**古田愛礼**、スピードを生かしたドライブで攻撃の起点となる**高松悠季**、稀代の3Pシューター**金子來樹**、精神的支柱としてもチームを支える3Pシューター**白崎上総**など全国制覇のために集まった兵（つわもの）が揃う。夏に経験した価値ある悔しさをバネに不撓不屈の精神で練習に精進し、県制覇を置き土産にそのまま県勢男子初の全国制覇に挑みたい。

**浜松西**は厚い選手層だけでなく安定した戦いぶりが目に付く。特に新チームへの切り替えから仕上がりに早さには定評があり、近年も体調不良者が出て途中棄権した令和4年以外はきちんと県武道館にたどり着いているから素晴らしい。今年も1,2年生のみで大会に臨むが、実績十分の選手を多く擁する楽しみなチームである。チームの中心は入学直後から主力を務めながらも大怪我で県総体に出場できず悔しさをバネにリハビリやトレーニングに励み不退転の決意で今大会に臨む183cm**尾藤遼陽**。全中3位の実績は折り紙付き、高校バスでもワンランク上の技術を披露しながらパワフルなプレーを見せてくれた。復調具合が気になるところだが、多くの観客にそのプレーを見てもらいたい選手である。その尾藤の不在を埋めたのがJr.ウインター出場経験もある**山田悠陸**、黒子に徹しながらも期待通りの活躍を見せた。幼少期から尾藤とキャリアを共にする183cm**関宮怜央**も長身を生かしたリバウンドが武器で、無理にセカンドショットには行かず状況に応じてアウトレットパスや高い位置からオポジットに走りこむ仲間にパスする判断力が秀でている。他にも、県総体全試合でスタメン出場、飛龍戦では先制の3Pを含むチーム一の16得点を挙げ成長著しい姿を見せた**福澤生也**などの戦力で得意のファイブアウトにも磨きがかかり、公立高トップレベルの力で藤枝明誠にどこまで通用するか楽しみである。

県総体で東部3位・三島北に速いテンポの試合に持ち込み、粘り強いディフェンスとエース・**鈴木仁**が30得点を挙げる大活躍で競り勝ち久しぶりに県ベスト16を勝ち取った**袋井商業**や令和4年度県新人から5大会連続県ベスト16以上を維持、**渥美陵平**を中心とした個性的な面々が繰り出す攻撃的なバスケットで初の県武道館進出を目指す**浜松聖星**にも注目したい。

その他の注目選手として、**今田流威・井田翔太・水口陽翔・周梓俊**(袋井商業)、**佐野裕章・水野誠太郎・原田竣・山崎巧太郎**(浜松聖星)、**前田ガブリエル**(遠江総合)、**尾形空・本田匠・細井龍**(静岡市立)、**芹澤遼人**(富士宮西)、**佐藤光希**(相良)、**増田脩人・中上智仁・小川春陽・徳田紘己**(静岡)、**野田龍之介・池田純悟**(富士東)、**庄司絢登・中野海球空・森蓮太郎・志村隼杜**(御殿場)、**鈴木翔弥・塚本大輝・清水明日夢・増田好汰・近藤翔太・後藤彩社**(島田工業)、**齋藤天馬・細川生童・南條蒼生・ピエンシャン・市川特翔**(静岡大成)、**山本醒馳**(池新田)、**井本碧**(藤枝北)、**アセソルカメ・太田友翔・島尾颯**(浜北西)、**蓋權斗・中谷元**(島田商業)、**齋藤航・武田倫太郎・坂本陽樹・安川仁登**(浜松西)などを挙げたい。

左下のブロックは県総体4位・飛龍と5位・静岡商業がメインコートで賭けて直接対決で雌雄を決する展開が予想される。しかしながら昨年準優勝の浜松学院や、近年安定した実力が目立ち平均身長175.2cmと高さも備え、**荻野陽向・平野琥太郎**・



近藤丈太郎など粒ぞろいの選手で挑む東海大静岡翔洋など実力派チームが揃い、選手にとっては「死のブロック」、見る側にとっては「群雄割拠のブロック」と言える。

飛龍は就任2年目の大石康史監督を中心とした原千容・勝又幸正両コーチのトロイカ体制が定着、浜松開誠館との東海総体出場権争いで敗れたが、昨年のウインター予選での浜松開誠館戦や県新人の浜松学院戦で見せた泥臭さ漂う粘りのバスケットを見せれば準決勝でも藤枝明誠を慌てさせる展開に持ち込める可能性は十分にある。中心となるのは1年次からアイディア満載のクレバーなプレーでグッドパスを連発、アシストの申し子と言えるキャプテン竹村勇祐。最後まで競った県総体・沼津中央戦では自ら得点に絡みチーム最多の15点、チームで唯一2年連続県武道館を経験していることも心強い。もう一人のポイントガード・小川優乃丞は得点能力に長け、ドライブで鋭角に切れ込みシュートに持ち込む。ケビエリィアス琉海、私はこの選手を初めて東海新人で知り、相手に身体を密着させてシリンドーを意識しながらも器用な手つきでボールをスティールするテクニックに目を奪われた。オフェンスでも上背のない分、恵まれた跳躍力を生かしてのリバウンドショットや勝負所で見せる3Pも正確、シュートフォームもしなやか、攻守の要として注目し値する選手、相手がどのような策を練って彼を止めるかも見てみたい。その他にも、3位決定戦で3P4本を含む18得点を挙げた松浦光陽、ドライブやリバウンドで体を張る180cm上門京太郎、重心の低いディフェンスで相手のターンオーバーを誘う星野光聖、高い身体能力の岩戸翼、シックスマンとして有事に備え出番が与えられればウイングからミドルを放つ伊藤凌、チーム最高身長185cm坂内洗太、そしてタフネスを生かしたリバウンドを見せる大平颯汰などの戦力で粘り強いディフェンスからブレイクを仕掛けさらにプレス主体のディフェンスにつなげるバスケットを見せ、王者を脅かすだけでなく勝利をもぎ取り4年ぶりの賜杯へつなげたい。

静岡商業は県総体では沼津中央に敗れたのみの4勝1敗で5位、一昨年の6位を上回る最高順位でウインター第5シードを獲得、初のメインコートを狙う。スーパースター市川やキャプテンとしてチームを支えてきた望月など3年生が引退し、新チームとして今大会に臨む。下級生にも実戦経験を積んだ選手を多く抱えるのがチームの特色、中心となるのがベルテックス静岡のユース育成特別枠選手としてBリーグにも出場経験のある北堀遼大。170cmと大柄とは言えない体格ながら飛び込みのリバウンドやインサイドの攻防にも積極的に参加し成果を出す選手、城南静岡戦では3P4本を決める大活躍を見せた。182cm齊藤遙人には市川の穴を埋める活躍が期待される。果敢にペイントエリアにアタックする猪突猛進型の選手、まだまだ粗い面もあるが将来的には十分その穴が埋められる未完の大器、温かい目で見守り成長を期待したい。中盤を任されるのは文谷虎斗と仲山柁志。文谷は県総体・浜松西戦第2Qで見せた綺麗な弧を描く3Pが印象的、もちろん中に切れ込んでのインサイドプレーにも一日の長がある。仲山は城南静岡戦で3P3本を含む19得点の大活躍、特に第2Qに決めたバスケは超美技、アンドワンも見事に決めるなど随所に見せるグッドプレーが印象に残る。その他にも、県総体でも出場機会を得た久保山大飛・富井真真・鈴木陽翔・齋藤龍門・鈴木瑛斗・岡庭正樹・出島健徳など若いチームながらも熱血漢・増田哲也監督に鍛え抜かれ、磨き抜かれ、大きく成長した器が多い。死のブロックを象徴するような組み合わせ、初の県武道館進出をかけて強敵・浜松学院との対戦が予想される。その後も飛龍・藤枝明誠と難敵が立ちあがるが、持ち前の守備とフィジカルを強化して大勝負に臨む。

このブロックの内枠に昨年県予選で準優勝し7年ぶりにウインター出場を果たした浜松学院がいることに各チームは戦々恐々としていることであろう。県武道館にたどり着くためには前年度ウインター出場校を破らなければならない。しかし苦しい組み合わせは浜松学院にとっても同じである。ウインターで正智深谷と好勝負を展開、新チーム始動から1ヶ月弱で臨んだ県新人も東海は逃したものの堂々4位、満を持して挑んだ県総体2回戦で城南静岡の怒涛の攻めと粘りのバスケットにまさかの敗戦、ウインター出場校が県2回戦で姿を消す衝撃的な結末に会場が静まり返った。屈辱の敗戦から5ヶ月、チームは万難を排して今大会に挑む。今年は決定的なシューターがいないことが苦しさの一因ではあるが、それを補うだけの総合力を持ち、努力を続ける選手を多く抱える。中心となるのはチームだけでなく県選抜選手としても活躍した石原弘幸。チームのスコアラールとして3Pと切れ味あるドライブが魅力、チームの舵取りも任せられてゲームコントロールにも優れる存在。司令塔・西垣玲央はボールを持たせればそのパスワークに、オフボールの時は自身の動きに目を奪われる一流選手、試合を冷静に分析できる極めてバスケIQの高い選手である。末永蒼はすべてにハイスpekなテクニックを持つ天才肌、相手司令塔にパスを出させないディナイや密着する寄り天下一品である。その他にも、怪我から復帰して得意のリバウンドに精を出す松本将虎、チーム一の長身187cm鈴木友真、粘りのディフェンスが持ち味・鈴木陽翔、唯一の泣き所であるアウトサイドからの得点を稼ぐべく3Pでも勝負する戸塚健太郎、ルーズボール・リバウンドなど球際の泥臭いプレーにも汗をかく藤井惺榮・宮澤政人、国スポ予備選手にも選ばれた川原暖など4強にひけを取らない戦力を有する。

浜松学院にとって今大会が現校名で臨む最後のウインターとなる。来年度から校名を「浜松学院興誠」と改称、平成23年以来5回の全国出場を果たした現校名と伝統の旧校名「興誠」を組み合わせた校名になる。興誠と聞くと全国出場29回を誇る強豪軍団を真っ先に思い浮かべ、その名称が14年ぶりに蘇ることに喜びを感じる。新たなスタートを切る前に、まずは平成10年以来26年続く県ベスト8で県武道館にたどり着き、さらに4年連続のメインコートを目指したい。

県内有数の指導力を誇り、選手育成にも定評がある須藤剣吾監督が星陵から異動して2年目を迎えた静岡北もこのブロック。私も夏の市民大会で対戦し直接チームを見たが、国体や東海大会出場の実績を持つ監督からバスケットの技術を吸収するべく選手全員がひたむきに指示に耳を傾け、愚直にコートで実践しようとし、選手たちの顔は「上手くなりたい」と書いてあるかのように真摯にバスケに向き合う姿が心に残った。監督が日々教えるバスケットの奥深さに魅了されて心酔し、指導者と選手の潤滑油となり後輩たちに「須藤バスケ」を根付かせようと必死に奮闘する唯一の3年生・山本宙にも勝利の感動を味あわせたい。



誠恵の192cm・中田舜にも注目したい。今大会後藤に次ぐ日本人2番目の高身長、徐々に加速してリングに叩き込むシュートが代名詞。今夏練習試合で胸を借りたが全得点の9割近くを叩き出すなどさらに得点力がアップしていた。ただ相手に対応された時に別の得点パターンを確立するのは急務、大会までの課題と言える。188cm山本靖仁・186cm張笑嘉などビッグマンを多く抱えるのも特色、県大会初出場を狙った東部新人で栗橋、東部総体ではマーロンという好選手に攻略され敗退した悔しさをバネに一昨年同様県ベスト32進出を狙う。

その他の注目選手として、白鳥兼祐・岩崎隼斗・小林まはる・栗田健吾(常葉大橋)、千葉歩夢・吉田康靖(誠恵)、望月琉愛・山川遼大(静岡北)、金諒紀・木下昊翼(藤枝東)、桑高綸太郎・喜多野瑛大(浜名)、柿澤昭伯・前田夕雅(静岡サレジオ)、小山太一・小田木菜悠・井田康介・田中有翼(浜松湖東)、木村海琉(加藤学園暁秀)、齋藤光希・石田逢士(清流館)、増井心汰朗・石間遼太・瀧井俊巴(焼津中央)、長谷川彰・望月俊輔・大竹悠太・市川慧(富岳館)、野中慶人・山本悠人・渡邊空聖・雪山慶人・増田そら(常葉大菊川)、萩原諒・深澤昂士郎・岡本心真・小林巧実・山田慎二(韮山)、川口将吾・平山蒼空・松本翔和・山本航大(東海大静岡翔洋)、浅田海・高松竜樹(伊豆総合)などを挙げたい。

右上のブロックは、県総体3位で4年連続の東海総体出場、沼津中央と共に数少ない藤枝明誠に対抗できる戦力を持つチームである浜松開誠館と、県総体でウインターにも出場した浜松学院を破るアップセットを演じ6位まで昇りつめ大会に旋風を巻き起こした城南静岡が県総体同様準々決勝で対戦する構図が予想される。

昨年4位の浜松開誠館は県新人・5位に甘んじたが、県総体では3位に入り東海総体でも三重2位の津工業に快勝、全国制覇の経験もある愛知県王者・中部大第一には敗れたものの好勝負を演じた。工藤・藤原・高森という昨年来の主力がさらにスキルアップし今大会に臨み、3年ぶりの優勝を目指す。9月に東海リーグで沼津中央と対戦、県予選準決勝の前哨戦とも言える「関ヶ原の戦い」で最終Qに逆転し2点差で勝利、今大会での再戦を見据えてライバルに相当なプレッシャーをかけることができた。今大会でもきちんと勝利を収めて決勝戦のコートで藤枝明誠と対戦したい。

中心となるのが3年間ゴール下の砦として攻守でチームに勝利をもたらす190cm工藤寧朗。この選手の長所を上げたら紙幅がいくらあっても足りない。しなやかな柔軟性と惚れ惚れするような体幹、すべてを器用にこなすオールラウンドなテクニック、挙げれば枚挙に暇がない。津工業戦では22得点・15リバウンド、圧巻のダブルダブルを達成、試合でも泥臭い仕事への積極性を決して失わなかった。私も毎回大会展望で期待を込めながら彼の課題を挙げ、前々回はメンタル面、前回はスロースタート面を指摘したが、いずれもきちんと次の大会までには修正されていて、まさに天才的プレーヤーと言える。留学生に対しても日本代表が見せたようなヒットファーストで互角以上の勝負を見せてもらいたい。その工藤とミニバス時代から深い友情をはぐくむ主将・藤原柁はトランジションが速くなるほど力を発揮、そこには練習に裏打ちされた足腰の強さが垣間見られ、独特な間合いを創り出してドライブで一気に切れ込んでいく。昨年の県協会優秀選手・高森カイルはいつでもどこでもそのチームに一番必要な役割をこなせる万能選手、ジャンパーや1on1、ドライブなどすべてが一流、リーチを生かしたスケールの大きさとプレーの正確さが光る。中学時代に全中・Jrウインターを制覇した実績を持つ木村暁大は巧みなステップとリズムで相手ディフェンスをいとも簡単にかわすテクニックを持ち外からのシュートも決められ国スポにも選ばれた大型ルーキー、東海総体では2試合で3P4本を含む31得点を記録、今後の成長がますます楽しみである。同じく大型ルーキー後藤大駕。ご存じの通り後藤正規監督の長男、親子鷹という重圧を受ける厳しい環境の中で期待通りに成長する逸材、196cmは今大会日本人最高身長、将来を嘱望される至宝でもある。県総体では幾分プレーに遠慮や粗削りな部分も見られたがそのポテンシャルは折り紙付き、沼津中央戦では華麗に決まる3Pも披露、プレーの一挙手一投足に注目が集まる。この夏にはU18日本代表にも選出され、韓国で行われた「日韓中Jr.交流競技会」にも出場、父、母、姉に続く後藤家4人目の日本代表選手となった。父に追いつき追い越す選手になってもらいたい、心から願うとともに将来フル代表での日の丸戦士を目指す大器の初めてのウインターに注目したい。その他にも、3位決定戦で15得点の大活躍・東海総体出場に貢献した180cm北條隆稀、中部大第一戦で途中出場し得点も決めた片岡未空斗・小野寺祐之・渡邊虎太郎、スピードを生かしたボールキャリアーに定評がある永井哩玖、昨年の全中で準優勝したキャリアを持つ宇都宮大騎、沼津中央戦でスタメン起用された宮城琉希など藤枝明誠に匹敵する厚い戦力で3年ぶりの優勝を狙う。そのためには準々決勝で予想される城南静岡戦に勝ち、県新人で敗れたものの東海リーグでリベンジを果たした沼津中央との完全決着戦を制する必要がある。

城南静岡は先述の浜松学院戦でお互いトランジションの激しいシーソーゲームを制し4点差で勝ち切り初の県総体8強入り、5位決定Tで浜松商業との激闘を制し最終的には創部以来最高順位となる6位になった。この大会昨年・一昨年と2年連続ベスト8実力派、今年こそ3度目の正直でメインコートでのプレーを誓う。城南静岡中学時代に全中に出場したメンバーが中心となるが、その中でも大黒柱は塩坂優斗。冷静なプレー選択の中に激しい闘志をにじませ、効率よくミドルレンジのジャンパーを決めるいぶし銀プレーヤー、浜松学院戦では16得点を記録したが彼の得点は相手が攻撃する際に出鼻をくじくように要所で効果的に決まり、ジャブのようにダメージを与え反撃の糸口をつかませなかった。数字以上に相手にダメージを与えチームを勝利に導くバスケットを見て私は躊躇することなく彼をプログラムの表紙に起用させてもらった。非常に謙虚な選手であることも特徴、今大会注目選手の一人と言える。その他にも、開始直後からエンジン全開、猪突猛進で得点を奪う姿が印象的、1on1を得意としスキルフルな攻撃の引き出しを持ちクラッチタイムでのアイソレーションからの攻撃にも境地を見出し、紆余曲折を経た高校バスケの総仕上げとして大会に臨む主将・海野伍希、浜松商業戦第2Qで決めた3連続3Pが忘れられない勝山海朋、中盤選手として黒子に徹し内外のつなぎ役を演じる生子遼仁、ドライブだけでなく勝負所の3Pも随所に決まる高松天成、下級生ながらスタメン出場、ドライブ・ミドルで矢継ぎ早に得点を決める佐野翔礼・望月吹など1年生から3年生ま



で多彩な戦力を抱える円熟期のチーム、準々決勝での対戦が予想される浜松開誠館との再戦が今から楽しみである。

その城南静岡と県武道館を賭けての戦いが予想されるのが県総体ベスト16**富士宮東**。ストイックなまでの肉体改造で強靱なフィジカルを構築、さらにはテクニシャンと呼ばれるほどの精錬された技術で東部の代表的選手に成長した**栗橋大寿**を中心に**刈谷蓮・森川拓登・瀧内由馬**など厚い戦力を誇る。平均身長176.1cmは全チーム中4位、180cm台の選手を7人も抱え、城南静岡戦での塩坂と栗橋の火花散るマッチアップが楽しみだが、その前に初戦での対戦が予想される県新人7位・**三島北**に勝たなければならない。両者は東部総体準々決勝で対戦、その時は三島北がダブルスコアで圧勝している。当時と今回では選手も違い一概に比較出来ないが、富士宮東にとっては初戦から難敵を迎えるとともに、見る側にとっては2回戦から屈指の好カードが実現する。県総体に下級生で唯一スタメン出場し14得点を決めた三島北の**川上遼賢**と栗橋は中学時代の先輩後輩、互いの手の内は知り尽くした中での両雄の戦いに今から胸が躍る。

個人的には**松崎のワシントンマーロン**に注目したい。兄・ケネス、姉・ジュリとともに過去にプログラムの裏表紙を飾った県を代表する選手、弟のマーロンも二人に負けないレベルのテクニックを持つ。攻・走・守三拍子揃ったオールラウンダー、丸太のような強靱な腕から繰り出される攻撃の数々は一見に値する。ワシントン兄弟最後のウインター、順調に勝ち進めば実現する工藤とのマッチアップを見てみたい。

その他の注目選手として、**白井比路・堤寛大・仲野光樹・伊藤利通・佐伯快晟**(三島北)、**大石聖悟・杉村桜生・北原由吉・望月晶斗・児玉祥磨・平澤遼介**(科学技術)、**関塚昂生・岡田太一**(磐田西)、**川端康太・大橋昭太・江原周佑・高浜瑳笑・杉本光優・石上創士朗・大橋昭太**(静岡城北)、**元野陽斗・太田一平・安藤悠翔・塩崎虎次朗・片瀬巧・曾根田澄真・西ヶ谷優心**(静岡東)、**柏木勇志・新村爽・濱津俊太・勝亦瑛太**(伊豆中央)、**後藤大祐・高杉理己・山口大翔・三枝宅成・鈴木泰惺**(日大三島)、**小川孝幸・奥村海夢・石田大蕾**(松崎)、**石川湊・稲葉蓮・上村恭生**(富士宮東)、**安心院慶**(榛原)、**天野雄太・飯田風斗・足立政宏**(清水南)、**水野大地・鈴木迪也・小西哲史**(焼津水産)、**大石佑・町田悠輝**(城南静岡)、**赤堀英太**(静岡聖光学院)、**鈴木涼太**(静岡農業)、**浅利奏磨・デラバナケンシン・服部虎士郎・高藤功磨・岡澤一颯・土屋翔誠・土屋愛翔**(加藤学園)、**望月悠雅**(浜松東)、**岸川藍佑・上野莉一**(浜松開誠館)、**加藤瑠騎**(浜松江之島)などを挙げたい。

右下のブロックは東海総体および東海リーグで対戦した三重の3強:四日市工業・津工業・四日市メリノール学院を総なめ、県新人・県総体ともに準優勝で文字通り打倒・藤枝明誠の1番手に挙げられる沼津中央と、県総体7位・常に県上位の成績を残し公立高校としての使命を果たし続ける浜松商業を中心とした争いになるであろうが、県総体でその浜松商業に敗れた静岡学園もこのブロック、県武道館を前にバスケファン垂涎(すいぜん)の好カードが実現することになる。

昨年大会3位の**沼津中央**は、東部・県・東海総体は**反町駿太**監督の代行として同じくOBの**浦田涼脩**コーチが采配を振ったが、今大会は反町監督が復帰、留学生2人と下級生時代から実戦経験を多く積んだ上級生が有機的に機能して9年ぶりの優勝を狙う。総体での浦田代行の采配は反町監督のバスケを踏襲しながら選手を鼓舞して気持ちよくプレーさせるスタイルが目立った。東海リーグ・浜松開誠館戦ではお互い同県のライバル意識がすさまじく最後まで息を飲む戦いが続いたが2点差で惜敗、しかし「冬への宿題」をもらったと解釈し、今年3度目の対戦となる県武道館での決着戦をものにしたい。

中心となるのはスコアラー**小林史駒**。県総体準々決勝では打った3Pすべて入ったと錯覚するくらいの大爆発、39得点中33点が3P、まさに「アウトサイドの魔術師」と化した。全国レベルでは決して長身とは言えない175cm、その中でも練習に裏打ちされた高い技術と研ぎ澄まされたメンタル、驚異的な跳躍力とクイックネスで試合の流れを引き寄せて相手を意気消沈させる。四日市メリノール戦でも3P10本・美濃加茂戦でも3P5本、県武道館でも高々と舞う3Pを早くこの眼で見たい。もちろん**桐生武蔵**も負けてはいない。188cmの長身を生かしてインサイドに活路を見出すプレーヤー、美濃加茂戦でも18得点11リバウンドのダブルダブルを達成、全国準優勝チームから達成したことに胸を張って欲しい。時に外から勝負に出ることもあり相手にとってはこれほど厄介な選手もいない。小林・桐生と新潟県の中学時代からのチームメイトとなる**内藤海夏**人は泥臭いことにも汗をかくハードワークがモットー、絶妙なアシストや献身的なディフェンスでチームに貢献する。3人一緒に歩んできた6年間の集大成、不完全燃焼に終わった夏の決勝の分まで取り返したい。**新垣颯野**は気配りの出来るプレーヤー、特に留学生との意思疎通的な役割も果たし、そつのないプレーでもチームに貢献する。192cm**エルデネサイハンエルデネバド**は日本人扱いとなるモンゴルからの留学生、大型センター陣とタイムシェアしながらの出場になった分、懸念材料であったスタミナ面の心配もなくなり集中力を高めてのプレーに凄みが増した。日本でのプレー歴も長くなり日本のスタイルにも適応してきたことも好材料である。ナイジェリアからの留学生206cm**ハビブカリファアテザ**は実戦経験を積ませるべく指揮官の粘り強い起用が功を奏し、堅実なスクリーンプレーや高い位置でのリバウンド確保が板についてきた。細身ではあるが巧みなステップワークでゴール下を制覇する。東海総体やリーグ戦で愛知・岐阜の留学生とマッチアップする機会があったことも大きな収穫、決勝戦で県内唯一の留学生対決を見てみたい。その他にも、共に東海総体にも出場して得点を挙げた**高木強臣**は190cmの長身を生かしたプレー、**手塚晃生**は執拗なまでハンドチェックングをしてのスティールと絶妙なアシストでチームに貢献、浜松開誠館戦ではスタメン出場の好機を生かした**具志堅理大**などの戦力で、高さを生かした攻撃と1線から激しく当たるディフェンスで勝ち上がり絶対的王者を倒したい。

沼津中央とブロック決勝での対戦が予想されるのは**浜松商業**。言わずと知れた県大会上位常連校で浜松西・静岡商業とともに公立高として強豪私学勢に果敢に挑む姿は見る者の心を大きく動かす。県総体では城南静岡と最後まで激しい攻防の戦



いを繰り広げた末惜敗、それでも県総体3年連続8強以上は素晴らしい実績と言える。近年新チームで臨むことが多かったが、今年は神谷・枝村などは引退したが主力の3年生が一部残り県総体の戦力を維持して大会に臨む。大黒柱は言わずと知れたミスター3P・宮本剛都。この選手の3Pに何回チームが救われ何回観衆がどよめいたことだろうか。県新人で敗れリベンジを期した県総体・静岡学園戦では29得点、相手に対策を練られ外へのこだわりを捨てて中で勝負したこの試合、一進一退の攻防から膠着状態が続く展開で相手の息の根を止める連続3Pを決めて勝利の立役者となった。圧巻は城南静岡戦、前半終了と同時に放った同点に追いつく低空飛行のブザービーター3Pはゴール真下でカメラを構えていた私に直撃するようなスピードで吸い込まれていった。誰もが目を奪われるダイナミックなプレーを簡単にやってのけるまさしくファンタジスタである。そして栗田頼乙も忘れてはいけない。チームになくってはならない司令塔、広い視野でのパス回し、ドライブ、3Pと八面六臂に活躍する。城南静岡戦でも3P2本を含む15得点、蓄積されたキャリアから来る肝の据わった精度の高いフリースローも魅力である。その他、183cmの長身を生かしたインサイドのプレーやゴール下の防波堤として貢献する白井力兜、怪我に悩まされながらも最後の舞台に勝負をかける大石真弘、シックスマンとして要所で投入されて監督の期待に応えた伊藤拓海、次世代のエースとしての期待も込めてプログラム男子扉絵にも抜擢された千葉勢太など多彩な戦力で県武道館を狙うが、その前に天敵・静岡学園が待ち受ける。静岡学園とは県新人・県総体に続き今年3度目、過去2回はともに1点を争う好勝負となり1勝1敗、今回は決着戦、両チームとも全身全霊で魂を賭けた死闘が予想されるが、結果のみにコミットして頭一つ抜け出し4年ぶりの県武道館で沼津中央と勝負したい。

平成29年度以来7年連続でベスト8以上をキープし続ける静岡学園も県総体・浜松商業との再戦で競り負けベスト16に終わり、今大会は内枠からのスタートとなる。下級生を中心とした布陣のなかで効果的に実力ある上級生を起用しバランスを取りながら勝ち抜くバスケットは健在、今大会での県武道館進出は最低限の目標ラインである。中心となるのは2年生エース・188cm内山直陽。県新人6位の立役者で内外左右どこからでも得点が取れるスコアラー、今大会でも注目の選手である。バランスの取れた柔軟な体幹を利用してパス、カットイン、スクリーン、ドライブを無難にこなすまさに技のサーカス選手も県総体では相手に対応されてしまった感がある。まだ2年生、経験を通してさまざまな技術や戦術を習得し、策を講じられてもまたその裏を探究していく選手に成長して欲しい。その他にも、国体でも活躍・チームではキャプテンとしての本文を全う、随所で名前の如く「味のあるプレー」を見せながら浜松商業戦では3P7本を含む24得点を挙げて勝利を呼び寄せる怒涛の攻撃を見せた味岡大斗、2年連続県選抜選手に選ばれ国体・国スポ両方に出場し今年はキャプテンも務めた大長真士、内山が外にフラッシュアウトする際に中でいい働きをする渡邊昊、そして県総体・日大三島戦で見せたワンマン速攻からのビッグストライドで放たれたレイアップが印象的な五條漱士など県武道館、さらにはメインコートを踏んでもおかしくない戦力が揃う。まずは順調に勝ち進み、浜松商業との決着戦に全精力を傾けたい。県武道館に行く前にこれほどレベルの高い試合が見られる私たちは幸せであるとおつくづく実感する。

このブロックの注目選手として、池田隼平・小林碧志・藤田惟吹・木下節也(駿河総合)、森田光雅・小林瀬七(伊豆伊東)、川満佑嗣・深澤太空斗・市川宗二郎(清水東)、遠藤彰・長島航太・宇佐美樟・横山優杜(清水西)、竹内銀河・佐野空良・松原陸・井奥夢叶(星陵)、遠田俊樹・植松輝(田方農業)、大石悠太・田中輝・榎本陽斗(藤枝西)、今部陽翔・江間真都・二橋悠生・村本尚輝・中澤悠乙・河合咲陽・ポリスティコユリ(浜松工業)、阪本圭亮・保角欣耶・道下砦・安井誠人・工藤泰心・大島優成(三島南)、鈴木憚・山本来瑠寿・松尾一樹・石原壮真(浜松湖北)、増田悠来・秋田隼斗(焼津)、池田蓮・犬塚就斗・佐藤柊・岩田伸之介・清水敦稀(浜松湖南)、鈴木隆也・高木悠生・小林暉生・大場悠叶(浜松南)、小島颯也・中山雄陽(浜松商業)、山田伊吹・金城光史朗・小長井優磨・山下敬太・久保蒼真・滝井蓮也・水上陽向(静岡学園)、津ヶ谷拳斗(清水国際)、ゴタマルコス(小笠)などを挙げたい。

## 女子

今大会も8連覇中の浜松開誠館中心の優勝争いになることは間違いない。その中でも令和4年度県新人から5大会連続準優勝、昨年から残る主力を中心に東海総体・東海リーグなどで実戦を重ねた市立沼津が今年も常勝女王をどこまで脅かすか、長期にわたる女王の独走を止めるべく勝負をかける展開が予想される。

県内高校156連勝、県内大会23連覇、栄光を数え上げれば紙幅が尽きる。毎回大会展望でも記録の数々を枕詞で語るのが風物詩、左上のブロックは浜松開誠館の独壇場となる可能性が高いが、県総体7位・県上位を戦い続けた主力が残る浜松商業やノーシードから東部総体を勝ち上がり県総体でも勝利を収めた飛龍や昨年度から4大会連続で県16強をキープする浜松日体などが女王への挑戦権を賭けて戦いに挑む。

浜松開誠館は県総体を危なげなく8連覇、東海総体では準決勝で岐阜女子に敗れたものの、星城・安城学園という愛知の強豪を倒して見事3位、インハイでも青森商業・小林を連破、再び岐阜女子と相まみえた3回戦では作戦通りロースコアの展開に持ち込み終盤一時は5点差まで詰め寄りながらも惜敗したが、インハイ準優勝チーム相手に東海総体よりも点差を13点も縮めて全国トップに肉薄。後藤・井口という3年間チームを牽引し続けた原動力にとって最後となる大会、県制覇はもちろんその先には全国4強以上という明確な目標が存在し、それも十分現実味を帯びている。

チームの中心は後藤と井口の両キャプテン。179cm後藤音羽は今や日本の至宝に成長した。U16アジアカップに続きU17で



も日本代表に選出、7月にメキシコで開かれた「FIBA U17ワールドカップ2024」ではキャプテンを務め7試合すべてで2桁得点を記録、アベレージでも大会6位となる15.7点、さらには決勝T以降では18.3点、数字が上がっているから恐れ入る。バスケット王国・アメリカ戦では3P3本を含む19得点で6位入賞の立役者となり、世代屈指のオールラウンダーとしてその技術が世界にも通用することを証明した。プレーの特徴はこの3年間ですでに書き尽くしたので割愛する。まことに僣越ながら毎回課題や助言も書かせてもらったが、すべて受け入れてきちんと修正、その実直な人柄と向上心には頭が下がる思いである。帰国後のインハイでは世界との戦いを肌で学んだことを生かし、中と外の攻撃バランスをよく考えながらプレー、あくなき探究心と向上心を見せた。大会でも個人平均得点25点で5位、小林戦での33得点は大会7位、しかしスタッツを並べるよりも実際プレーをその目で見てもらえば百聞は一見に如かず、「最後の冬」に賭ける熱い気持ちを感じながら今回も観客を魅了するだろう。輝かしいキャリアを引き下げて入学した**井口姫愛**にとっても最後のウインター、試合を重ねるたびに冴え渡る流れを読むプレーには脱帽、自身がボールを持つ時間を減らしパスで裁いて味方を生かすプレーの一方、鋭角に切れ込むペネトレーションも絶品、果敢に3Pも放つなど何をやらせても合格点以上のプレーを見せる。青森商業戦では積極的に相手との間合いを詰めて3スティール、走り込むシューターにグッドタイミングで4アシスト、仲間を生かしたプレーや重心を低くしてのインテンシブなディフェンスも光る。後藤との阿吽の呼吸で見せる絶妙な連携プレーにも注目したい。**八重柏愛奈**は昨夏にレギュラーを掴んでから一気に主力へと駆け上がり、得意のポストプレーにも一層磨きがかかり、深く振りかぶって思い切り放つ精度ある3Pも板についてきた。小林戦で記録した5アシストが示す通り、巧みなパスでもチームを救う。国スポ出場に大きく貢献した**前川桃花**はこの1年、入学前から評価が高かった固いディフェンスだけでなく攻撃面でも大きく成長、的確なタイミングで見せる見事な連携や果敢にドライブを試み、フィニッシュの豊富さも魅力、インハイ3試合で42得点を稼ぎ、次世代のスコアラーに成長した。**山本さくら**は思い切りのある度胸満点のプレーが信条、指揮官からも太鼓判を押されるほどのアグレッシブさを持つ。その他にも、後藤が負傷欠場時にその穴を埋める活躍を見せ東海総体や小林戦ではスタメン出場して177cmの恵まれた高さを十分に使ったプレーを見せた**小幡美空**、鮮やかなファストブレイクを演出する攻撃型ガード**牧田知結**、入学直後から出場機会に恵まれ途中出場したインハイ・岐阜女子戦では24分のプレイングタイムをもらい攻守で自身の魅力を十分に発揮した**垣内優希奈**、高さとスピードを兼ね備えて縦横無尽にコートを駆け回る175cm**杉山実子**、国スポ選手に選ばれた**鈴木結愛**・**小林陽菜乃**・**鈴木千夏**など県内屈指、全国でも有数の戦力を誇る。三島正敬監督が積極的に選手交代を行い、時にはツープラトンも使う新たな試みも見せるなど総合力のレベルが一段と上がり、さらに失点の少なさが目立つのは徹底的に指導し続けたハードなディフェンスが全員に浸透したからに違いない。総力戦で県を勝ち抜き東京体育館のメインコートを目指しての飽くなき戦いが続く。

県新人6位・県総体7位と安定した成績を取める**浜松商業**は主力の3年生・三浦・山田・西塚などが引退、2年生以下の完全なる新チームとして今大会に臨むが、実戦経験を重ねた下級生も多くフレッシュで楽しみな面々が揃う。大黒柱は**大場優菜**、前チームでは中盤のつなぎ役を任されていたが新チームではどのような役割で起用されるのかも興味深い。チーム事情にもよるが、インサイドをやらせても無難にこなすだけのセンスを持つユーティリティー選手、13得点した県総体・浜松南戦では冷静沈着に決めるフリースローや時折披露する飛び道具も印象深く、三浦の後釜として十分に役割がこなせる大器である。正直私もこの展望を書くまで2年生だったとは気づかず、将来未恐ろしい大器となる雰囲気漂わせる選手である。その他に司令塔を任されて試合序盤から躊躇なく3Pを放つ度胸満点のプレーヤー**原田りの**、パスをさばいて味方へのアシストを連発する**谷野有彩**、シックスマンからレギュラーをつかみ実戦経験を蓄積する**伊藤優月**など新進気鋭なフレッシュメンバーでまずは初の県武道館にたどり着き、常勝王者に挑みたい。

今回唯一の初出場校・**伊豆伊東**にも注目したい。昨年伊東・伊東商業・城ヶ崎分校が統合し創設、男子は令和3,4年と「伊東・伊東商業」の合同チームで出場、昨年は晴れて「伊豆伊東」で初出場を果たした。それから遅れること1年、今年は女子が初出場、前身の伊東は令和3年、伊東商業は平成29年が最後の出場、統廃合の関係とは言え平成30年の御殿場西以来の女子初出場校誕生となった。昨年の学校統合時から女子部もあったが人数不足で公式戦に出場できず、他校との合同チームでの活動等を通して成長、新入生6人が加わり、積極的なドライブやシュートを中心に攻撃的なバスケットを目指す。3Pを武器に積極的に点を取るフォワード・**大川卯姫**や力強いリバウンドで貢献するセンター**福原優里**などの上級生を中心に悲願の初勝利を目指す。

その他の注目選手として、**大久保愛姫**・**細田栞愛**・**持田莉子**・**坪田桜子**(浜松開誠館)、**石垣栞**・**和久田珠寿**(浜松湖南)、**水鳥心羽**・**中嶋夢月**・**村松奈々**・**山口琴乃香**・**坪井雪羽**(富士宮東)、**高屋敷里帆**・**吉田光花**・**遠藤優日**・**三橋可奈**(三島北)、**富高華音**・**岩見果隠**・**近藤湖都**・**篠原由愛**・**鈴木真花**・**鈴木娃賀**(飛龍)、**高橋倅菜**・**五味優花**・**西村佳菜**・**波多藍耶**(浜松日体)、**中島季良**・**兼子結衣**(磐田西)、**望月優奈**{3年}・**小泉美奈子**・**曾根未来**・**小川心優**・**望月優奈**{2年}・**大出柚葉**(静岡女子)、**中村ののか**・**玉川冴**・**森下恋**・**田内桃花**(浜松商業)、**前田茉莉花**(静岡雙葉)、**伴野花音**(静岡西)、**中嶋希楓**(清水西)、**森心明**・**田中沙宮良**(下田)、**村上純菜**(富士宮北)、**大津優奈**・**野村結花**(富士東)、**櫻井瑚々**(掛川東)などを挙げたい。

左下のブロックは2年連続で東海総体を逃した県総体4位・浜松学院と5位決定Tで浜松聖星・浜松南を連破し創部以来最高順位5位を残した沼津商業が準々決勝で対戦することになりそうだが、大会最多16回の優勝を誇る常葉大常葉やエース・**辻村明日花**を擁して県総体ベスト16、**勝部真菜**・**久芳美羽**など当時のスタメンがそのまま残る**三島南**もこのブロック、激戦が予想される熾烈な戦場と化した。

一昨年準優勝・昨年3位の**浜松学院**は県総体3位決定戦で東海大静岡翔洋の鬼気迫る攻撃に屈したが、戦力的には市立沼津・



東海大翔洋と全く遜色なく、まずは準々決勝で沼津商業を振り切り4年連続のメインコートにたどり着き、2年ぶりの決勝戦に駒を進めたい。中心となるのはフォワードとして中盤を任されて内外広いシュートエリアから得点を決めるスコアラー・168cm**足立珊瑚**、攻守の要として監督やチームメイトからの信頼も厚いプレーヤーである。ゲームコントロールするのは**相川樹由**。判断力に優れ、仲間の表情や息づかいを見ながら**窪田智弘**監督の考えに基づきゲームを組み立てる天才肌、エコパ決勝2試合で30得点、大舞台で勝負強いところも頼もしい。チーム最高身長171cm**高山璃世**はリバウンドに励み、セカンドチャンスをもものにする。このチームの特色は高さがあること、平均身長165.9cmはトップの浜松開誠館とわずか0.1mm差、登録選手の多くが160cm台～170cm台というのも強みである。その他、県総体全戦スタメン出場し高山とともにインサイドの砦としてリバウンド争いに奮闘した171cm**荒井香実**、国スポ選手にも選ばれた170cm**袴田千愛**、3位決定戦でスタメンを任せられ国スポ予備選手にもなった**市川水琴**、その3位決定戦で効果的に途中投入されチーム最多の17点を挙げ実力を覚醒させた170cm**太田綾夢**、国スポ予備選手の**本間輝星**など多彩な戦力が揃う。そして忘れてはならないのが**ワネケジジュリエット杏奈**。強靱なフィジカルから繰り出されるドライブや合わせのシュート、リバウンド争いで身体を使った献身的なプレー、下がりながらも要所を捉えてのディフェンスなどどれを取っても一級品。現在大怪我でリハビリを行いながら戦線復帰に向けて奮闘中と聞く。私は彼女の類まれなる能力と地道な努力へのリスペクトも込めてプログラム裏表紙を飾るプレーヤーに選ばせてもらった。それをプレッシャーには感じずにまずは怪我の回復を第一に考えながら調整してコートに戻って来て欲しい。

対する**沼津商業**は5位決定Tで主力の向井を怪我で欠く苦しい状況下、チームがさらに団結しベンチに掲げられた「背番号5」に魂を込めて一致団結、初の県5位を勝ち取った。勝利のあと、**齋藤さゆり**コーチが涙を浮かべながらエコパの2階席から松葉杖姿で観戦していた向井に手を振って勝利の報告をした光景に私も思わずもらい泣きをした。その向井も怪我から復帰、回復具合が心配であるが持ち味のチーム沼商で初のメインコートを狙う。このチームは個々のハイレベルなテクニックはさることながら、就任18年目を迎えた齋藤コーチの情熱あふれる指導に選手全員が魅了され、その教えを実践すべく抜群のチームワークで勝利に向かい突き進む姿が特徴である。チームの中心は**庄司奈納**。キャリア十分の絶対的エース、1on1の駆け引き、勝負所の見極め、コートバランスの掌握などチームの屋台骨を一心に背負いながら個人技にも秀でて、持ち前のスピードと精度のあるシュート力で勝利をグッと引き寄せる。**向井京**は非凡なパスセンスから出されるノールックや力強いハンドリングからのドライブが生命線の選手、腰の痛みに耐えながらプレーした県総体・市立沼津戦で見せた気迫あふれる闘志は無念の欠場となったエコパ決勝でチームメイトに受け継がれ勝利につながった。彼女が完全復調となればこれほど頼もしいことはない。170cm**梅原優月**はトリッキーなオフェンスリズムを駆使し1on1や低い姿勢からのドライブでゴールにダイブ、随所に見せるフリースクリーンも一級品である。**稲田楓羽**はディフェンスの砦としてチームに貢献、自分が1点取るよりも相手の1点を守りたいという強い意志がプレーから伝わる。そんな守備の人がエコパで決めた2本の3Pの放物線は今でも私の脳裏に残る。172cm**白井碧**は長身を生かしたインサイドプレーでゴール下を旋回、ファウルレシーブ後のフリースローも正確で、絶妙な間合いとルーティンで放たれるフォームも注目である。その他にも、向井欠場の穴を埋める大役を任せられ見事指揮官の期待に応えた**白井小夏**、効果的に途中で投入され身を挺して自陣を守るディフェンスが目についた**江藤碧音**、下級生ながらプレイングタイムを増やし経験を積む**三浦咲**・**今坂怜愛**・**加藤和奏**など、全員ディフェンスからブレイクへつなげる速いトランジションを武器に初のメインコートを目指す。浜松学院との対戦は残り1秒まで1点を争う目の離せない試合になるはずだ。

**常葉大常葉**も侮れない。県総体では浜松南に敗れベスト16に終わったが、新体制2年目となり佐野監督の教えも定着、まずは2年ぶりに県武道館に凱旋したい。持ち味は高さとうまさ、そして変わらぬ伝統の「ステイロー」。平均身長165.6cmは県内3位、県内最高身長・181cm**室伏理緒**を筆頭に177cm**河島唯奈**・174cm**原優花**など長身選手を抱え、**伊藤亜莉沙**・**森輝月**・**植田柚希**・**須田理子**・**池田愛央衣**・**佐野麻帆**・**二宮ひなの**・**鈴木雅**など技巧派選手が揃う布陣、上位進出の可能性は十分ある。初戦は駿河総合との対戦が予想され、まさに平成29年決勝の再現、2回戦から豪華カードが実現する。**駿河総合**も2年ぶりに県総体出場、**中野春風**・**岩田蒼未**・**天野なつき**を中心に山椒は小粒だがピリッと辛いメンバーが揃う。お互い指導者として全国の大舞台で何度も修羅場を経験している常葉・**佐野恵子**監督と駿河総合・**立野幹夫**監督が見せる「勝負のかけ引き」はバスケットを学ぶ人にとって何事にも代えられない生きた教材となるだろう。

**日大三島**は2年ぶりの出場となる。県大会常連校、令和元年から3年連続でこの大会ベスト32、令和4年はベスト16に入り、あと1勝で県武道館というところまで迫った。昨年の県総体にも出場したがウインターには部員不足で出場できなかった。今年は新進気鋭の新入部員が入部、限られた人数の中で粘り強いディフェンスから走るバスケットを目標に、抜群のスピードで切れ込む2年生ガード・**秋山心**、1年コンビ・得点力の高いテクニシャンガード・**根緒美来乃**、視野が広くプレーの出来がチームのバロメーターとなるフォワード・**池田あおい**などの戦力でまずは初戦突破を狙う。

このブロックにはある意味今大会最大の注目チームがいる。**静岡学園**・**静岡英和**・**焼津水産**・**焼津中央**、大会史上初の4校合同チーム、もちろん4校の合同は大会史上最多、全国的にも類を見ない合同チームである。近年顕著な右肩下がりを見せる女子競技者数衰退を象徴するような出来事で、学校統廃合を除く純粋な部員不足での合同チームは2年ぶり3度目となる。4チーム合わせても選手は8人という苦しい人数だがキャプテン**白井英蘭**（静岡英和）を中心に、昨年この大会ベスト32進出に貢献した・**引地優**（焼津中央）、長身選手172cm**大島こころ**（静岡英和）、静岡市選抜選手にも選ばれた**廣江さくら**（静岡学園）、焼津水産唯一の選手・**中山明音**、そして下支えする2人のマネージャーなど少数精鋭のメンバーで合同チーム8年ぶりの勝利を目指す。そして来年はこの4校すべてが単独チームで参加してくれることを心から願う。

その他の注目選手として、**鳥村梨央**・**石上七菜**・**見崎ひなた**・**岸山愛海**・**山本毬愛**（駿河総合）、**伊藤栞奈**・**宮城島夢子**・**菅野陽向**・





遠藤陽菜・手塚希海(清水南)、西村歌里那・八木向日葵(島田)、三須愛子(沼津西)、若林花波(富士)、野邊田和実・山本空・上野梨音(富岳館)、渡邊結衣・伊澤せり・足立結菜・山中和奏(三島南)、渡邊陽南乃・中田千尋・蓮池未夢・水谷那奈・渡邊陽南乃(富士市立)、櫻井寧々(袋井)、守山ひかり・田開瑚生・高柳亜知葉(浜松学院)などを挙げたい。

右上のブロックは浜松学院との熾烈な激闘を制して7年ぶりに東海総体出場を果たした県総体3位・東海大静岡翔洋と、こちらも5位を賭けた沼津商業との戦いで惜敗したものの、最後まで逆転のチャンスがあった浜松南を中心に、昨年ベスト8・県総体2回戦で市立沼津を追い込み残り1秒まで逆転のチャンスがあった**静岡県東**やオールラウンダー**後藤さつき**を擁して8年ぶりの県武道館を狙う**沼津中央**の県総体ベスト16の2チームが加わった争いが予想される。

**東海大静岡翔洋**は選手としてインハイ出場経験を持つ**大島美代**の監督が今春着任、選手の長所を生かしながら効果的な選手交代を繰り返して3位決定戦を制した。東海総体ではいなべ総合学園に敗れたものの前半を3点差で折り返すなど、東海地区上位にも通用する底力を見せた。中心となる唯一の3年生・**一見陽菜**は下級生中心のスタメン陣を抜群のキャプテンシーでまとめ上げる大黒柱、比較的小柄な部類に入るが飛び込みのリバウンドで得点に絡み、引き出しの多い攻撃バリエーションは職人芸、数字に表れづらい貢献度も計り知れない。私は夏の放送部研修会で翔洋にお邪魔した際の昼休みに体育館で練習を見させてもらったが休憩時間でも寸暇を惜しみながらシュート練習に汗を流す姿を目にして、シュート練習の試投数は県下随一だろうと察する。お互い勝ち上がって同じミニバスチームで切磋琢磨した市立沼津・勝亦とのメインコートで対峙したい。177cm**稲葉叶**は基本に忠実かつクレバーなプレーヤー、私が非常に高く評価する選手である。この選手はオンボール時のプレーも秀逸だがオフボール時の動きにも注目して欲しい。フロート・スクリーン・フォローアップ、そしてハイローの動きなど先を読んだプレーに高いバスケットセンスを感じる。東海総体でも12得点9リバウンド、まさに今大会注目の選手である。その他にも、3位決定戦でスタメンに抜擢されチーム最多の16得点・度胸ある3Pも4本決め逆転勝利の立役者となり途中出場した東海総体でも9リバウンド・4アシストを記録した172cm**山内楓**、東海総体でスタメン出場・3P3本を含むチーム最多タイの12得点を挙げた**青島由來**、県総体は1試合のみの出場に終わったが東海総体でスタメンに大抜擢され3アシストを決めた**望月凛**、3Pでもドライブでも得点を稼げる**星合汐風**、小柄ながら積極的に中に割って入りリバウンドに絡む**北川伶奈**など攻守に足を使ってスピードを活用するバスケットが特徴、そして随所に功を奏す大島監督の選手起用と大胆な采配にも注目、まずは浜松南を攻略し市立沼津との再戦にも勝利したい。

東海大静岡翔洋と準々決勝で対戦が予想されるのが**浜松南**。従来総体後に3年生は引退するケースが多かったが昨年は4人、今年は2人の3年生がエントリーし2年ぶりのメインコートを目指す。令和4年の県総体以来7大会連続で県ベスト8以上という県立高校では一番の安定感を保ち、一昨年の大会では準々決勝で東海大翔洋を倒して堂々3位、今年の県総体でも6位という素晴らしい成績を残した。最後の最後で逆転された沼津商業戦の直後、エコパのバックステージで選手全員が号泣する「ラストミーティング」取材させてもらったが、その瞬間から悔しさあふれる気持ちを整理しながらウインターでの雪辱を誓っていたのが印象的だった。3年生2人と国スポ出場経験を持つ下級生などがバランスよく機能すれば2年ぶりの県4強も現実味を帯びてくる。3年生はメインコートでプレーした貴重な経験を後輩に伝えながら**杉本貴史**監督から教えられたバスケットを実直にコートで実践する。中心となるのは昨年のベスト8、県新人5位・県総体6位の立役者・3年生**山村梨心**と**興水想来**。山村は1年次からレギュラー、県武道館でも3試合主戦としてプレーし、広い視野から繰り出される絶妙なパスや切れ味のあるドライブ、精度の高い3Pなど多岐に渡るプレーの幅が魅力、興水はとにかくボールへの執着心が強い。ひたすらボールを追い続けプレーに絡み得点を奪おうとする姿勢が素晴らしい。沼津商業戦でも残り数秒、相手ディフェンスにも密着された体勢でも数%の奇跡に賭けて果敢にシュートを放った姿に感銘を覚えた。昨年から急激に伸びた大器晩成型の選手、そのひたむきさに勝利の女神が微笑み、名前の如く「想いが来る」ことを信じたい。下級生では県総体全試合スタメン出場・元来171cmのインサイド選手だが沼津商業戦で見せた先制の3Pで外からも攻撃できることも証明した**若林鈴音**、怪我に苦しんだ時期もあったが県総体では控えの切り札としてチームを支え浜松商業戦では途中出場ながら13得点、特に第1Q終盤に決めた3連続の3Pは相手の出鼻を大きくくじき結果的には勝敗の分岐点ともなるプレーとなった**鷹野瑠美**、昨年県選抜選手として東海国体にも出場した**新林芽依**、入学早々レギュラーを獲得・172cmの長身を生かして県選抜選手として国スポにも出場した**相澤彩乃**、国スポ予備選手にも選ばれた**萩原静音**・**金森柚妃**、そして同じく国スポ予備選手・中学時代に出場した「U15クラブゲーム」で全国3位、ベストシューター賞も受賞した金の卵・**金子莉央**など多彩な戦力を誇る。東海大静岡翔洋との一戦は県武道館が沸き上がること間違いなく、一昨年は浜松南が競り勝ったが今年も実力伯仲の両チーム、注目の黄金カードとなる。

このブロックの**磐田東**にも注目したい。常葉大常葉(常葉学園)を37年に渡って指導、全国大会出場36回、ウインター県予選優勝16回どちらも県内最多を誇り、平成14年度にはインハイ・ウインターともに全国制覇の偉業を達成した名将・**小前宏史**が監督に就任、新天地で指導を始めた。まだ新たなスタートを切ったばかりのチーム、人数も7人ではあるが少しずつ「小前イズム」が浸透し始めて、これからの躍進が楽しみである。まずは初戦突破して弾みをつけて、優勝候補の一角・東海大翔洋に挑戦するところまで辿り着き、選手に勝つことの幸せを味わえたい。

今年の県総体にも出場、県新人は現在まで4年連続で出場権を獲得している**浜松北**は今大会196チームを通じて最少人数、唯一の5人での出場となる。県総体でも下級生として唯一のスタメン出場を果たし先輩からの薫陶を胸にチームを牽引する**内山夏緒**を中心に一致団結、ディフェンス時のプレスなど注意しないとファウルアウトという致命傷になりかねないリスクを背負うが、全員が果敢に相手に挑み、2勝して尊敬する先輩たちの実績に肩を並べたい。



その他の注目選手として、**藤田結依花・鈴木華蓮・鈴木日菜多**(浜松南)、**古川結衣**(清水東)、**柴山凜花**(常葉大橋)、**石川歩美・水口晃・増本葉女・北川ひより**(島田商業)、**高橋乃愛・片桐たまき・鈴木湖遥**(浜松湖東)、**芝本有紗・石野海月・谷口優愛**(浜松東)、**藤倉華音・藤倉琴音・田村悠香・鬼頭菜津・大竹里奈・野口華音**(加藤学園)、**廣田美優・杉山莉彩・杉山奈南・伊藤葵・渡邊夏帆・伊藤瑛那**(静岡東)、**鈴木楓花・山田結月**(磐田北)、**白鳥有菜**(静岡農業)、**依田愛巳・浅田海・江川風・金子未杏・岩田楓**(沼津中央)、**難波香凜**(浜松北)、**伊藤光虹・山下風音**(磐田東)、**甲賀彩葉・稲葉くるみ・菊池由穂**(吉原)、**石和麒佳**(裾野)、**遠藤衣月・羽石あずみ・森理栞子・森理彩子**(東海大静岡翔洋)などを挙げたい。

右下のブロックは県総体準優勝・市立沼津が圧倒的な力を誇り、14年ぶりの優勝も視野に入る。それを県総体7位の浜松聖星が上級生と下級生を有機的に機能させ、個性的あふれる戦力で追いかける展開、そして県ベスト16・共にその時のスタメンがそのまま残り戦力維持とともに更なる上積みが期待できる藤枝順心と静岡大成が続くであろう。

優勝11回を誇る**市立沼津**は東部総体決勝でライバル沼津商業に不覚を取り17年ぶりに優勝を逃し背水の陣で挑んだ県総体、準々決勝で沼津商業と再戦し今度は快勝、そのまま一気に2年連続の準優勝・4年連続東海総体出場も決めた。東海総体では津商業に思わぬ苦戦を強いられ激しいプレッシャーディフェンスに攻撃の糸口が見いだせず脚が止まる窮地に追い込まれたが1点差で勝利、勝負所でも指導者・選手が慌てることなく信頼し合って戦う市沼バスケの原点が垣間見られた試合だった。中心となるのは**勝亦麻結**。とにかく無尽蔵の体力でコート走り回りボールに絡もうとする姿勢が好印象、手足の長さを生かしたリバウンドやハードなディフェンスが持ち味、東海総体・桜花学園戦でも孤軍奮闘、3P2本を含む13得点、リバウンドでも存在感を見せた。また冷静沈着なフリースローにも定評があり、県総体・沼津商業戦、第1Q終盤6本連続で決めたシーンも印象に残る。昨年度県協会優秀選手を受賞した**河谷真矢**は抜群の跳躍力と長い手足を生かしたリバウンド支配、卓越した走力など総合的に完成された選手、井口・後藤とともに「今大会ビッグスリー」と評価したい。時に自分を犠牲にしても周りを生かして得点を導き出すプレーヤー、津商業戦では178cmの長身とジャンプ力を生かして驚異の10得点17リバウンドでダブルダブル、まさに静岡県を代表する選手である。170cm**野田志**は入学当初からレギュラーを任せられ信頼の厚い選手、2年連続で国スポ(国体)選手となり、相手との駆け引きからシュートに挑む技巧派選手、東海リーグではテンポの良い3Pやドライブ・カットイン・ポストプレーなど器用に技のオンパレードを披露、周りも彼女にボールを集め攻撃の体制を整える援護射撃もあった。経験を積むほどに成長が見える選手、国スポやリーグ戦など貴重な舞台でさらに大きく成長して欲しい。同じく2年連続県選抜選手となった**上原美桜**も173cmの高さを生かしたリバウンドが魅力、フラッシュしてからのミートシュートも上手に放つ。その他にも、国スポ選手にも選ばれ実勢経験を積み、得意のドライブからのジャンプシュートや3Pの切れ味が増した**米内心菜**、1年生ながら県総体全試合スタメン出場・東海総体でも得意の3Pを成功させた国スポ選手・**岩田真奈**、東海総体に出場し得点も決めた**高野紗来・植田亜瑚**、長身173cm**竹ノ内菜優**・170cm**岩川恵里花**など心技体の整った戦力で、一貫して厳しいディフェンスをしながら脚を使ったパスランと力強いリバウンドでまずは決勝まで勝ち上がりたい。ウインター決勝の前哨戦とも解釈できる東海リーグは浜松開誠館に得意のロースコアに持ち込まれ屈辱の26得点、相当悔しい思いをしたことであろう。その悔しさをバネに決勝まで精進を重ね、雪辱を期したい。

**浜松聖星**は令和4年度新人戦から県8強を堅持、特に昨年のこの大会では3位となり、9年ぶりに県武道館のメインコートに帰還、現校名になってからは初の快挙となった。当然今年も2年連続の4強以上が目標となる。大竹・高下・長坂など一部の3年生は引退したが、キャリアのある主力も残り楽しみな存在である。中心となるのは昨年来レギュラーを務める3年生・**三井亜利華**と2年生・**長谷川万桜**。守りの要・三井は体を張った堅守が信条、相手の目を見て次を読み、一歩先にドライブコースに入って待ち構えるプレーを見せる。カットインして切れ込むドライブや膝を深く曲げた正確なフリースローなど攻撃面でも貢献する。攻めの要・長谷川はミートシュートやドリブルを用いてのボール運びが絶品、エルボーやペイントエリアからのジャンパーなど中心に県総体・浜松学院戦では16得点を挙げた。そのシュートの精度を見る限り相当量のシュート練習をこなしている印象を受けた。その他にも、ここぞの場面で監督の信頼を背負って投入されて期待に応えることが多かったが今大会ではスタメン選手として得意の3Pが期待される**岡部玲那**、ディフェンスが持ち味の**深間菜月**、2年生ながら県総体のシビアな場面で起用されて貴重な経験を積んだ**森美希奈・中面杏奈**など例年と変わらずハイレベルな戦力を持つ。まずは確実に県武道館に進出して昨年準決勝で敗れた市立沼津に勝って2年連続メインコートでプレーをしたい。

昨年のベスト8**藤枝順心**は**小池紫寿・石田妃葉里**、県総体で三島北との接戦を1点差で制して県大会9年ぶりの16強入りを果たした**静岡大成**は**丸山真央・山下美優**という3年生の絶対的ダブルエースを擁する。3年生にとって泣いても笑っても最後の大会、最上級生が見せる意地に期待したい。

**桐陽**の**河谷唯**にも注目したい。長いウイングスパンを生かしたリバウンドとパスセンスを武器に攻守でチームに貢献、特にリバウンドにおけるファーストタッチの速さと高さに注目して欲しい。1歳上の姉は同じブロック・市立沼津の**河谷真矢**、たどり着くまでにはシード校2校を倒さなければならないが、今年の東部総体で実現した姉妹対決を再び県武道館で見たい。

その注目選手として、**伊藤美結・三井琴羽・佐藤碧**(西遠女子)、**鈴木萌花・今西莉子・藤井ひより**(浜松市立)、**山道和奈・佐々有彩・松角悠母・小野田朋恵**(静岡市立)、**長島凜**(静岡サレジオ)、**芹澤もか・廣末葉央・加藤結愛**(桐陽)、**佐々優華・勝又慶・田中桃葉・坪内杏香里・安間佳穂**(静岡)、**大畑こま・栗田恋羽・須山心穏・柴田愛奈・望月葵衣**(静岡大成)、**増田悠伽・中山志緒梨・落合美雨・小杉凜・稲垣菜瑚・阿多海尋**(静岡商業)、**増井弥空・宮住美桃・大月耶奈実・杉山未緒・石田妃葉野・小出涼寧**(藤枝順心)、**高根夢・芹澤美実香・勝間田愛果・渡邊梨乙**(御殿場南)などを挙げたい。



## History of Winter Cup

### ウインターカップ(選抜・選手権)の歴史と静岡県予選の歩み

文 = 中島 洋己 (県協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

第77回全国高校バスケットボール選手権大会静岡県予選が令和6年10月19日に開幕する。そして男女優勝校が12月23日に東京体育館他で開幕する全国選手権大会(ウインターカップ2024)に出場する。「アフターコロナ2年目」となった今年も日本バスケットボール協会(JBA)が仕掛けるさまざまなショーアップ化で大会がますます盛り上がるだろう。

この大会は47年間「選抜優勝大会」として親しまれてきたが、平成29年に従来全国高校総合体育大会(インターハイ)と兼ねて行われてきた「選手権大会」を分離し、より大会の権威を高めるために選手権を単独で開催することとなり名称変更が行われた。この改革によりこの大会が名実ともに「高校バスケの最高峰」となった。一時期ジュニアウインターカップを年末に開催するために年始に移行する計画もあったが、最終的に年末開催を堅持、やはりウインターは年越しに欠かせない「年末の風物詩」として位置づけられている。

ご存知の通りウインターカップは、サッカーの「選手権」、バレーボールの「春高バレー」、ラグビーの「冬の花園」とともに「冬の高校4大スポーツ大会」と呼ばれている。選抜大会時代から数えて55年となる歴史はインターハイよりも浅いが、3年生が出場できる最後の大会となり、まさに高校生活最後の集大成として認知されている。当然指導者・選手達にとっても、この「ウインターカップ」という言葉を聞くと身が引き締まる特別な思いが込み上げてくるはずだ。

まずこのウインターカップ(選抜大会)の歴史を簡単に説明したい。昭和46年春に第1回大会が代々木第二体育館で開催された。当時は東北・関東など各ブロックで行われる予選を勝ち抜いた16チームのみが全国選抜に出場することができ、東海地区は男女各1枠しかなく、県予選で優勝しても東海選抜大会で敗退したらその年の県代表の出場がない場合もあった。昭和50年から出場枠が各24チームとなり、それに伴い東海地区の出場枠も男女各3チームとなった。ただ昭和63年12月の第19回大会は東海地区の女子が1枠増となり、誠心(現浜松開誠館)が東海選抜4位で悲願の初出場を決めた。逆に平成元年は東海地区男子が1枠減となり、初出場を目指した沼津学園(現飛龍)が県選抜で優勝を飾りながら東海選抜3位、全国選抜初出場を逃すというドラマもあった。このようなブロック予選を経て全国選抜に出場という形は平成元年まで続いた。

その間、劇的な変化も起こっていた。それまで年度末に開催され、1,2年生のみの新人戦形式となっていたこの全国選抜が昭和63年春の大会を最後に年末に以降、冬休み中の開催となり同時に3年生も出場できるようになった。インターハイ、国民体育大会(国体・現国民スポーツ大会)を戦ってさらに技術を磨いた最上級生のプレーが見られるようになり、明らかに大会のレベルも上がった。平成2年からはブロック予選をなくし、出場チーム数を大幅に拡大、47都道府県代表各1+開催地(東京)1の合計48チームとなった。それに合わせ大会の通称名を「ウインターカップ」とし、以来この呼称が高校バスケ最高峰の大会として完全に定着している。

ウインターカップが最大の盛り上がりを見せたのは平成10年第29回大会、能代工業(秋田)が史上初の高校9冠・108連勝を達成、のちに日本人初のNBAプレーヤーとなる田臥勇太ブームもあり観客の入場制限が行われるなど、いわゆる高校バスケの『人気飽和状態』がピークを迎えた。その後平成21年からその年のインターハイ優勝・準優勝チームには無条件で出場権が与えられることになり男女各50チームとなった。そしてインターハイの出場校枠が大幅に削減された令和元年からは、この50チームに加え各ブロック総体(東海総体など)優勝チームの所属都道府県にプラス1枠(関東総体のみ優勝・準優勝都県)が与えられることとなり、男女各60チームとなった。令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響ですべての総体が中止となったため、各都道府県代表と開催地枠の他に登録チーム数の上位2都道府県からもう1枠ずつ推薦(東京と神奈川)、そして全国9ブロックから客観的な事実に基づき1チームを推薦の計60チームで行われた。さらに令和3年度からはインターハイ優勝・準優勝チームに与えられていた出場権も当該チームではなく所属都道府県に付与し、すべてのチームに「3試合以上の予選参加」を義務付けている。



ここで開催地と各都道府県の予選についても触れてみたい。開催地は前述の通り、昭和46年から平成5年までは代々木第二体育館をメイン会場に行われた。その間昭和63年春の第18回大会だけは**神戸市ワールド記念ホール**で開催された。平成6年は東京体育館、平成7年は代々木第二体育館で行われ、平成8年からは**東京体育館**に定着、改修工事のため平成24年はアジア大会や世界選手権も行われた**広島グリーンアリーナ**、東京オリンピックのための改修工事となった平成30年と令和元年は東京パラリンピックの車椅子バスケット会場となる**武蔵野の森総合スポーツプラザ**をメイン会場としたが、改修が終了した令和2年からは聖地・東京体育館にウインターカップが戻ってきた。また、令和元年の出場枠増加に伴い必然的にサブ会場も必要となり、**エスフォルタアリーナ八王子・駒沢オリンピック公園体育館・大田区総合体育館**などでも熱戦が繰り広げられている。県予選の会場は、**新居町民体育館、吉田町総合体育館、浜松市体育館、沼津市民体育館**など地方の体育館をメイン会場としてきたが、平成13年から5年間は**静岡市北部体育館**、そして平成18年から現在までは一貫して藤枝市の**静岡県武道館**がメイン会場となり、県武道館はウインター出場を目指す県内高校生のあこがれの場所、そして聖地となっている。また予選の方法は各都道府県協会の判断に任されていて、上位8チームのみで行っている地域や静岡県のように地区予選なしで全チーム参加の県予選を行っているところもある。

前置きが長くなったが、ここからは静岡県の選抜優勝大会の歴史をたどっていききたい。昭和46年に始まった選抜大会だが、当時は地区予選・県予選を1月に1,2年生のみで行っていたため「新人大会」も兼ねた大会として始まった。初の県予選優勝チームは男子・浜松商業、女子・浜松市立。しかし当時は全国選抜に出場できるのは東海選抜に優勝したチームのみ。浜松市立は見事東海選抜でも優勝し、県内初の全国選抜大会のコートを踏んだチームとなった。一方の浜松商業は東海選抜で**四日市工業**に敗れ、全国選抜出場はならなかった。だがその**浜松商業**は昭和49年に県内男子初の全国選抜出場を果たす。このように**坂田勝利**率いる浜松商業は選抜大会開始直後の静岡県高校バスケット界を牽引する存在だった。昭和54年に坂田が浜松北に転勤するまでに県選抜制覇4回、全国選抜出場3回を数えた。以後は長らく栄冠に見放されていたが、平成11年に坂田の愛弟子・**加藤佳充**が監督に就任、**菅川浩樹、石谷優二**など恵まれた戦力を生かして平成14,15年と県選抜を連覇。私学全盛の平成時代に公立高校として最後まで優勝争いに絡み全国大会出場4回、平成15年のインハイでは全国ベスト8、孤軍奮闘を続けた。

その後、男子バスケット界も名将・**大石功**が黄金期を築きあげて**鈴木和之**へと受け継ぎ全国出場12回を数える**浜松西**や興誠など西部地区の高校が上位を占め、特に昭和62年には浜松商業・興誠が東海選抜で上位に食い込み、初の男子2校全国出場を果たした。なかでも興誠（現浜松学院）はOBの**石川友康**が指揮官としてチームを一から作り上げ、昭和56年から県選抜3連覇、59年こそ賜杯を静岡に譲ったが60年から再度4連覇。この7回の優勝時にはすべて全国選抜出場を果たしている。さらには**後藤正規、辻村浩**など後年日本代表に選出された選手も輩出し、まさに昭和末期を疾風のように駆け上がってきた。ただこの全盛期の興誠をしても全国を勝ち抜くのは至難の業で、今まで5回準々決勝進出を果たしているがすべて厚い壁に跳ね返されベスト8止まりになっている。平成に入ってからのこの石川の教えは後年監督を引き継いだ**村上幸哉**や現監督の**森下貴之**に受け継がれ、平成28年、**田中旭・ダシルバヒサシ**を擁して15年ぶりそして現校名・**浜松学院**として初めてのウインター出場を果たし、令和5年には2校に増枠したワンチャンスを生かし7年ぶりに全国の檜舞台に戻ってきた。来年度からは校名を**浜松学院興誠**に改称して新たな歴史を築く。

同時期に女子で一時代を築いたのが**浜松市立**。**榎本行宏**が大学卒業直後から33年間一貫して指導し続け、最後の3月開催となった昭和63年までに県選抜優勝・全国選抜出場ともに7回。特に昭和52年は県選抜2位ながら東海選抜で3位を勝ち取り全国に出場、昭和59年には全国ベスト8に導くなど全国出場13回を数えた。平成に入って以降は全国から遠ざかっているが令和2年の県予選で市立沼津を破り見事決勝進出、34年ぶりの優勝は逃したものの就任から10年・**小野田宏親**の指導の下、長身選手を多く擁して王者相手に決勝戦にふさわしい激闘を繰り広げ準優勝、翌年の県新人でも堂々3位、古豪復活を印象づけた。

同じく高校女子バスケット界を盛り上げた**佐藤政弘**率いる**静岡精華**（現静岡大成）も全国選抜出場3回を数えたが、全国での勝利は果たせなかった。浜松市立同様公立の女子校だった**清水西**は**川崎健三**が県内屈指の強豪校に育て上げ県選抜を2度制覇したが、ついに全国の舞台を踏むことなく現在に至っている。**西遠女子学園**も知将・**鈴木勝郎**のもと、県制覇2回、インハイ出場も3回を数えるが県選抜では最高が準優勝、ウインター出場を目前にしながら涙を吞んだ。また監督個人に焦点を当てれば、静岡商業時代に女子を率いてインハイ出場3回、県総体優勝1回、県新人優勝1回の



偉業を果たした**立野幹夫**は、平成18年に**外村悠貴**、平成22年に**内野智香英**というのちに**Wリーグ**で活躍する絶対的エースを擁しながら共に決勝で敗れ聖地のコートにはいまだ未踏であるが、定年退職した現在は駿河総合で指導を続け、当時と変わらない情熱で40年来の夢を追い続けている。

男子の興誠のように昭和後期から平成初期の女子バスケット界を突如席巻したのが**市立沼津**。昭和56年にいきなり県選抜準優勝を果たすと翌57年には優勝。全国選抜でも初出場で堂々のベスト8に入った。**青木良浩**がカリスマ的な指導力で選手の心をつかみ、平成8年まで実に9回のウインター出場を果たした。特に昭和63年3月の神戸開催では全国4位、12月の東京開催では3位。県勢長年の悲願・ベスト8の壁を突破し、初の**メインコート**へと導いた。翌年の大会でも3位。出場9回のうちベスト4以上が5回、そして**秋本恵**、**原久美子**、**木下あゆみ**ら総勢5名の選手を大会ベスト5入りさせている。青木はその後静岡商業・**静岡南**・**駿河総合**で指導を続け4校すべてで全国大会出場、そして県内最高のウインター通算26勝、県内指導で一線を退いた後は明星学園（東京）・白鷗女子（神奈川県）など県外での指導に軸足を移した。なお市立沼津は青木の転勤後、**大畑昌己**が引き継ぎ平成21,22年に県選抜を連覇、**外山優希**・**鷹嶋公歌**・**橋本明歩**などを育てた。現在は**勝間田文乃**がチームを率いてインハイ出場に2度出場、ウインター県予選では決勝に3度進んだが東京体育館には未踏である。

平成に入り大会名も「選抜優勝大会」同様「ウインターカップ」の愛称でも親しまれるようになり、静岡の高校バスケットも新たな力が台頭してきた。男子は沼津学園（現**飛龍**）、女子は常葉学園（現**常葉大常葉**）。西部地区に押されていた中部・東部地区が頭角を現してきたのである。**沼津学園**は平成元年の県選抜初制覇のあと、平成5年にウインター初出場を果たした。指導者の**杉村敏英**が平成21年沼津中央に転出するまでに県選抜優勝7回、ウインター出場6回、インハイ出場12回。ウインター最高順位は平成8年の全国ベスト8。杉村は**加藤吉宗**・**高原純平**・**種市幸祐**・**大石慎之介**・**青島心**など長年プロのトップリーグで活躍する選手を育成し名伯楽ぶりも発揮、東部男子の発展にも大いに貢献した。そのあとは若き闘将・**原田裕作**がチームを率いて11年間で全国大会出場9回・16勝、県制覇12回、インカレMVPにも輝いた**松下裕汰**を育てるなど立派にその伝統を受け継ぎ多大な功績を残して令和5年に母校・福岡第一の指導者になって静岡の地を離れた。

**常葉学園**は昭和62年に**小前宏史**が着任。4年目の平成2年に初の県選抜制覇を果たすと以後2度の5連覇を含む県選抜優勝16回と圧倒的な強さを誇る。この優勝回数は男女通じての最高回数で、**島田智佐子**・**名木洋子**・**田中真樹**・**篠宮杏奈**・**見崎南美**・**植田希歩**など一線級の活躍をした選手を数多く育て上げた。さらに特筆されることは何と言っても平成14年度にインハイに続き県勢初のウインター優勝を果たしたことである。**櫻田佳恵**・**山田未来**・**三浦歩惟**らの活躍で超満員札止めとなった新春の代々木第二体育館、決勝で**中村学園女子**（福岡）を65-54で破り、総体・国体・ウインターの**全国三冠**を達成した試合は静岡県高校バスケット史上最高の名勝負として今でも多くのファンの脳裏に焼き付いて離れない。現在もOGの**根本葉瑠乃**が第一線で活躍を続けている。平成の女子バスケット界は全国選抜出場11回を誇る市立沼津、その市立沼津から異動した青木が指導して**関布紗子**・**谷川奈穂**・**松田朋子**を擁して平成11,12年と県予選連覇、12年には高山インターハイで準優勝、その年のウインターでも4位入賞を果たした**静岡商業**、平成10年初優勝の**静岡女子**、**能戸茂樹**が長年の指導を裏ませ平成15年に悲願の初優勝を飾った**沼津中央**、そして女王・常葉学園の5校で賜杯を分け合う状況が続いていたが、平成28年**三島正敬**のもと、**浜松開誠館**が見事初優勝。四半世紀以上優勝のなかった西部地区女子に昭和61年の浜松市立以来、実に30年ぶりの賜杯を持ち帰った。28年ぶりに出場したウインターでは全国ベスト8、十分に県代表の責任を果たした。現在高校の大会では県23連覇、156連勝を継続中、全国大会でも通算24勝、まさに黄金の円熟期を迎え、**小笠原ひかる**・**陽本麻優**・**石田悠月**・**石牧葵**・**鈴木侑**など**Wリーグ**で活躍する選手も多く輩出している

平成18年、興誠・飛龍・浜松商業の男子3強の戦国時代に突如参入したのが**藤枝明誠**。指揮官に昭和後期、**昭和学院**（千葉）女子で全国制覇7回の偉業を遂げた**西塚建雄**を迎え、県外選手や中国人留学生を招くなど巧みなスカウティングで就任2年目には早くもインハイ出場を果たす。その年には県選抜準優勝、翌19年には見事優勝しウインター初出場を果たし、以後3年連続で出場、平成21年にはベスト8。オフensiveなバスケットが魅力のチームで特に平成20年の2回戦・海部（徳島）戦でチームが162得点の大会新、そしてのちにBリーグでMVPも受賞する**藤井祐真**も一人で79得点。昭和47年に**北原憲彦**（明大中野）が記録した58得点を36年ぶりに大幅更新、現在でも55年間の歴史に燦然と輝く**1試合個人最多得点記録**、不滅の金字塔である。平成24年には**札幌創成**（北海道）で女子をインハイに5回導



いた三上淳が着任、25年の大分インターハイで見事準優勝、同時にウインター出場も決め静岡県男子に出場枠を「もう1枠」呼び寄せた。秋の県予選は決勝戦のみ出場、試合勘という点で心配されたが、県代表・沼津中央にも圧勝し改めてその実力を証明した。ウインターでは現在NBAレイカーズの八村塁を擁する明成（宮城）に敗れたが堂々の4位、史上最年少で日本代表候補に選ばれた角野亮伍を核としたバスケットは静岡県のレベルの高さを証明した。その三上は平成27年に51歳の若さで急逝、3年間という短い間だったがその抜群の指導力は静岡県の高校バスケット界に大きな影響を与えた。その後は東京の公立中学で滋賀全中ベスト8に導いた阿部桂を招聘、複数のマリ人留学生を効果的に使う高さのバスケットで就任4年目の令和元年にウインター県予選を初制覇、静岡県初の女性優勝監督となった。阿部はその年のウインターを最後に惜しまれつつその座を退いた。その後は北海道で国体監督の経験もある日下部二郎が監督に就任、令和4年のインハイでは3位を勝ち取りその大会を最後に後進に禅譲、見事な引き際を見せ、現在は2度の監督代行経験がある金本鷹が青年監督としてチームを指揮、エース・赤間賢人を擁して2年連続でウインター3位、令和5年には東海総体を制し再び静岡県に「もう1枠」をもたらした功績は大きい。

平成後期の男子バスケット界に黒船の如く乗り込んできたのが沼津中央。飛龍を長年率いた杉村が平成21年同校に赴任し強化に着手、県内初のセネガル人留学生・シェリフ・ソウを中心とした高さのバスケットで平成22年藤枝明誠の4連覇を阻止し初栄冠、ウインター初出場を果たす。その後平成25年まで4年連続出場。2度目の出場となった平成23年では県勢男子初のベスト4進出。これまで県勢が8回跳ね返されてきた準々決勝の壁を突破。惜しくも準決勝で日本人2人目のNBAプレーヤーとなる渡邊雄太を擁する尽誠学園（香川）に敗れたが、3位決定戦で名門・福岡大大濠（福岡）に快勝して県勢男子最高順位となる3位入賞、ソウも県勢男子初の大会ベスト5、リバウンド王と得点王に輝いた。その杉村も山口力也・今村拓夢・大橋聖也や現在ベルテックス静岡で活躍する岡田雄三などBリーガーを育て上げ平成25年に勇退、後任の指揮官には市立船橋（千葉）でウインター4位の実績を持つ廣田誠が就任し平成27年にはサンブー・アンドレを擁して5度目のウインターカップ出場を果たし、現在はOBで杉村の愛弟子でもある反町駿太が采配を振るっている。

近年は男子の新興勢力として、城南静岡・星陵・加藤学園・公立の雄・三島北、そして長くBリーグなどで活躍した波多野和也が原動力となり平成12年にウインター初出場、近年も日本代表・市川真人を擁して2年連続3位に食い込んだ静岡学園などが上位に進出している。その中でも浜松開誠館が目覚ましい躍進を見せている。平成24年創設と同時に日本代表としても活躍した後藤正規が監督に就任、あっという間に県大会準優勝4回・東海大会出場5回を誇る県下有数の強豪校に鍛え上げたが、なかなか「県制覇・全国出場」を果たせずにいた令和3年、県総体決勝でトリプルオーバータイムの末に敗れた宿敵・飛龍を倒してついに初の県王者、ウインター出場を決めた。苦節10年・後藤が人目をはばからず流した大粒の涙が今でも忘れられない。なお予選形式が平成10年から決勝リーグの廃止、完全トーナメント制になったこと、平成13年からは地区予選を廃止し全県予選になったことも付記しておきたい。

最後に県予選の名勝負を紹介する。異論があるかもしれないが記録や記憶の関係で比較的近年のものとしてほしい。女子は平成10年決勝の静岡女子ー市立沼津。残り4秒で静岡女子・大場里美の劇的な3Pシュートが決まり逆転、指揮官・柘植夏也が渾身のガッツポーズで初優勝の喜びを表した試合は「結末のドラマ」という点で今でも多くの人々の記憶に残っている。そして平成28年決勝・浜松開誠館ー駿河総合。「選抜大会」有終の美を飾る試合は近年まれに見る実力伯仲の試合となり、一瞬たりとも目の離せない白熱した戦いが続く中、浜松開誠館が試合終了20秒前に同点に迫りつき決勝戦史上初のオーバータイムに持ち込み、粘る駿河総合を最後の土壇場で振り切り初優勝を飾った試合は今でも人々の脳裏に焼き付いて離れない。男子は残り15秒沼津学園が1点リード、興誠の1年生センター・田中健介が3Pシュートを決め土壇場で逆転に成功し2年ぶりの優勝を手にした平成13年決勝の興誠ー沼津学園戦や、興誠が石原裕貴を中心に最強王者・藤枝明誠相手に怒涛の追い上げを見せた平成20年決勝の藤枝明誠ー興誠、そして平成30年の準決勝、第3Q終了時に19点差でリードを許していた浜松開誠館が主将・神田誠仁を投入、神風が吹き第4Qだけで43点を挙げ藤枝明誠を歴史に残る大逆転劇で下した浜松開誠館ー藤枝明誠も捨てがたいが、それでもやはり最後の最後までどちらが勝つかわからなかったスリリングな展開の試合として平成24年決勝の沼津中央ー藤枝明誠を推したい。藤枝明誠リードの中、残り20秒で沼津中央のエース・石川知樹からのパスを受けた望月孝祐が逆転の3Pシュートを決めて逆転。藤枝明誠もわずかな残り時間を使って司令塔・成田正弘がドライブからゴール下に絶妙のパスを合わせたが、直後のシュートがリングに嫌われ万事休す。100-97の激闘で沼津中央が3連覇を達成した試合は、県武道館が最も揺れた珠玉の名勝負として永遠に語り継がれるだろう。



## 全国高校選抜大会・選手権大会(ウィンターカップ)静岡県予選全記録

回数	年度	全国開催地	男子				全国大会での成績
			優勝	準優勝	3位	4位	
1	S45	代々木	浜松商	清水東	静岡 / 清水南		出場なし
2	S46	代々木	静岡商	清水南	浜松商 / 静岡市立		出場なし
3	S47	代々木	富士宮北	浜松商	静岡商	浜松西	出場なし
4	S48	代々木	浜松商	静岡商	浜松西	静岡市立	浜松商2回戦
5	S49	代々木	浜松商	静岡商	清水南	藤枝東	浜松商2回戦
6	S50	代々木	浜松商	静岡東	日大三島	静岡商	浜松商2回戦
7	S51	代々木	日大三島	浜松商	静岡	静岡東	日大三島1回戦
8	S52	代々木	興誠	藤枝東	静岡商	静岡	出場なし
9	S53	代々木	静岡東	浜松商	興誠	御殿場南	静岡東2回戦
10	S54	代々木	浜松西	浜松北	日大三島	自動車工	浜松西ベスト8
11	S55	代々木	興誠	浜松西	静岡	清水南	興誠1回戦
12	S56	代々木	興誠	静岡東	浜松北	富士	興誠ベスト8
13	S57	代々木	興誠	浜松西	浜松商	静岡	興誠ベスト8
14	S58	代々木	興誠	浜松西	浜松商	葦山	興誠1回戦
15	S59	代々木	静岡	浜松西	浜松商	興誠	出場なし
16	S60	代々木	興誠	浜松西	静岡	浜松商	興誠ベスト8
17	S61	代々木	興誠	浜松商	沼津学園	浜松西	興誠2回戦、浜松商1回戦
18	S62	神戸	興誠	沼津学園	浜松西	静岡市立	興誠ベスト8
19	S63	代々木	興誠	浜松西	沼津学園	静岡市立	興誠ベスト8
20	H1	代々木	沼津学園	浜松西	興誠	浜松商	出場なし
21	H2	代々木	浜松西	沼津学園	浜松商	興誠	浜松西ベスト8
22	H3	代々木	浜松西	興誠	静岡市立	沼津学園	浜松西ベスト16
23	H4	代々木	興誠	浜松西	沼津学園	加藤学園	興誠ベスト16
24	H5	代々木	沼津学園	浜松西	浜松商	興誠	沼津学園ベスト16
25	H6	代々木	沼津学園	興誠	浜松西	加藤学園	沼津学園1回戦
26	H7	東京	興誠	沼津学園	浜松商	浜松西	興誠ベスト16
27	H8	代々木	興誠	沼津学園	浜松西	浜松商	興誠ベスト16
28	H9	東京	沼津学園	浜松湖東	浜松西	静岡	沼津学園ベスト8
★決勝リーグ廃止			優勝	準優勝	3位 (順不同)		ウィンターカップでの成績
29	H10	東京	浜松湖東	浜松西	沼津学園 / 興誠		浜松湖東1回戦
30	H11	東京	興誠	浜松湖東	静岡 / 静岡学園		興誠1回戦
31	H12	東京	静岡学園	興誠	静岡 / 沼津学園		静岡学園ベスト16
32	H13	東京	興誠	沼津学園	加藤学園 / 星陵		興誠1回戦
33	H14	代々木	浜松商	沼津学園	加藤学園 / 興誠		浜松商ベスト16
34	H15	東京	浜松商	飛龍	静岡西 / 興誠		浜松商ベスト16
35	H16	東京	飛龍	静岡学園	静岡西 / 浜松商		飛龍ベスト16
36	H17	東京	飛龍	浜松商	興誠 / 浜松工		飛龍1回戦
37	H18	東京	飛龍	藤枝明誠	浜松商 / 伊豆中央		飛龍1回戦
38	H19	東京	藤枝明誠	飛龍	興誠 / 静岡学園		藤枝明誠ベスト16
39	H20	東京	藤枝明誠	興誠	飛龍 / 静岡学園		藤枝明誠ベスト16
40	H21	東京	藤枝明誠	興誠	飛龍 / 静岡学園		藤枝明誠ベスト8
41	H22	東京	沼津中央	藤枝明誠	興誠 / 浜松商		沼津中央ベスト8
42	H23	東京	沼津中央	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松商		沼津中央3位
43	H24	広島	沼津中央	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松商		沼津中央ベスト16
44	H25	東京	藤枝明誠	沼津中央	飛龍	静岡東/浜松学院	藤枝明誠4位、沼津中央2回戦
45	H26	東京	藤枝明誠	沼津中央	飛龍 / 浜松学院		藤枝明誠1回戦
46	H27	東京	沼津中央	飛龍	藤枝明誠 / 浜松学院		沼津中央1回戦
47	H28	東京	浜松学院	沼津中央	飛龍 / 藤枝明誠		浜松学院ベスト16
全国高等学校選手権大会(ウィンターカップ)静岡県予選							
70	H29	東京	飛龍	藤枝明誠	浜松学院 / 浜松開誠館		飛龍ベスト8
71	H30	武蔵野の森	飛龍	浜松開誠館	浜松学院 / 藤枝明誠		飛龍ベスト16
72	R元	武蔵野・八王子	藤枝明誠	飛龍	浜松学院 / 静岡学園		藤枝明誠2回戦
73	R 2	東京・武蔵野	飛龍	藤枝明誠	静岡学園 / 沼津中央		飛龍2回戦
74	R 3	東京・駒澤	浜松開誠館	飛龍	藤枝明誠 / 浜松学院		浜松開誠館2回戦
75	R 4	東京・大田区	藤枝明誠	浜松開誠館	飛龍 / 浜松学院		藤枝明誠3位
76	R 5	東京・武蔵野	藤枝明誠	浜松学院	飛龍	浜松開誠館	藤枝明誠3位、浜松学院1回戦
77	R 6	東京・武蔵野					

網掛け は全国出場

# ウィンター県予選女子歴代記録



網掛けは全国出場

回数	年度	全国 開催地	女子				全国大会での成績
			優勝	準優勝	3位	4位	
1	S45	代々木	浜松市立	藤枝西	静岡女子商 / 清水西		浜松市立1回戦
2	S46	代々木	浜松市立	静岡精華	静岡女子商 / 清水西		出場なし
3	S47	代々木	清水西	浜松湖東	静岡女子商	清水女子	出場なし
4	S48	代々木	清水西	浜松湖東	浜松南	富士見	出場なし
5	S49	代々木	清水女子	誠心	清水西	静岡精華	清水女子1回戦
6	S50	代々木	静岡精華	浜松市立	藤枝西	誠心	静岡精華1回戦、浜松市立2回戦
7	S51	代々木	浜松市立	静岡精華	静岡女子商	清水西	浜松市立2回戦
8	S52	代々木	浜松市立	清水西	静岡精華	藤枝西	浜松市立2回戦
9	S53	代々木	浜松市立	浜松湖東	清水西	浜松南	浜松市立2回戦
10	S54	代々木	静岡精華	浜松市立	静岡女子商	清水西	静岡精華1回戦
11	S55	代々木	静岡精華	市立沼津	静岡女子商	誠心	静岡精華1回戦
12	S56	代々木	市立沼津	浜松南	磐田北	静岡西	市立沼津ベスト8
13	S57	代々木	浜名	浜松南	浜松市立	市立沼津	浜名ベスト8
14	S58	代々木	浜松市立	西遠女子	浜松南	沼津精華	浜松市立ベスト8
15	S59	代々木	市立沼津	浜松南	静岡精華	静岡西	市立沼津1回戦
16	S60	代々木	浜松南	浜名	市立沼津	静岡西	浜松南1回戦
17	S61	代々木	浜松市立	市立沼津	浜松南	沼津精華	浜松市立2回戦
18	S62	神戸	市立沼津	浜松市立	誠心	浜松南	市立沼津4位
19	S63	代々木	市立沼津	誠心	静岡城北	西遠女子	市立沼津3位、誠心1回戦
20	H1	代々木	市立沼津	誠心	常葉学園	西遠女子	市立沼津3位
21	H2	代々木	常葉学園	西遠女子	沼津精華	浜松市立	常葉学園1回戦
22	H3	代々木	常葉学園	市立沼津	誠心	西遠女子	常葉学園ベスト8
23	H4	代々木	常葉学園	市立沼津	誠心	御殿場	常葉学園1回戦
24	H5	代々木	市立沼津	常葉学園	沼津精華	西遠女子	市立沼津ベスト8
25	H6	代々木	市立沼津	常葉学園	沼津中央	浜松市立	市立沼津3位
26	H7	東京	市立沼津	静岡精華	静岡市立	浜松市立	市立沼津4位
27	H8	代々木	市立沼津	常葉学園	静岡女子	沼津中央	市立沼津ベスト8
28	H9	東京	常葉学園	市立沼津	静岡女子	沼津中央	常葉学園ベスト16
★決勝リーグ廃止			優勝	準優勝	3位 (順不同)		ウィンターカップでの成績
29	H10	東京	静岡女子	市立沼津	静岡商 / 常葉学園		静岡女子ベスト16
30	H11	東京	静岡商	市立沼津	沼津中央 / 常葉学園		静岡商1回戦
31	H12	東京	静岡商	常葉学園	沼津中央 / 市立沼津		静岡商4位
32	H13	東京	常葉学園	静岡商	興誠 / 市立沼津		常葉学園ベスト16
33	H14	代々木	常葉学園	静岡商	興誠 / 市立沼津		常葉学園優勝
34	H15	東京	沼津中央	常葉学園	静岡商 / 静岡女子		沼津中央ベスト16
35	H16	東京	常葉学園	沼津中央	浜松開誠館 / 静岡女子		常葉学園ベスト16
36	H17	東京	常葉学園	沼津中央	浜松開誠館 / 静岡商		常葉学園1回戦
37	H18	東京	常葉学園	静岡商	浜松開誠館 / 清水西		常葉学園ベスト8
38	H19	東京	常葉学園	浜松開誠館	沼津中央 / 市立沼津		常葉学園ベスト8
39	H20	東京	常葉学園	市立沼津	沼津中央 / 浜松開誠館		常葉学園ベスト8
40	H21	東京	市立沼津	浜松開誠館	沼津中央 / 静岡女子		市立沼津1回戦
41	H22	東京	市立沼津	静岡商	常葉学園 / 静岡女子		市立沼津2回戦
42	H23	東京	常葉学園	静岡女子	浜松開誠館 / 静岡南		常葉学園2回戦
43	H24	広島	常葉学園	市立沼津	浜松開誠館 / 沼津中央		常葉学園2回戦
44	H25	東京	常葉学園	市立沼津	浜松開誠館 / 駿河総合		常葉学園ベスト8
45	H26	東京	常葉学園	駿河総合	浜松開誠館 / 浜松海の星		常葉学園2回戦
46	H27	東京	常葉学園	浜松開誠館	駿河総合 / 沼津中央		常葉学園1回戦
47	H28	東京	浜松開誠館	駿河総合	常葉学園 / 沼津中央		浜松開誠館ベスト8
全国高等学校選手権大会 (ウィンターカップ) 静岡県予選							
70	H29	東京	浜松開誠館	市立沼津	常葉大常葉 / 藤枝順心		浜松開誠館1回戦
71	H30	武蔵野の森	浜松開誠館	駿河総合	常葉大常葉 / 藤枝順心		浜松開誠館ベスト16
72	R元	武蔵野・八王子	浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津 / 藤枝順心		浜松開誠館ベスト16
73	R 2	東京・武蔵野	浜松開誠館	浜松市立	市立沼津 / 静岡西		浜松開誠館2回戦
74	R 3	東京・駒澤	浜松開誠館	常葉大常葉	市立沼津 / 浜松学院		浜松開誠館ベスト16
75	R 4	東京・大田区	浜松開誠館	浜松学院	市立沼津 / 浜松南		浜松開誠館2回戦
76	R 5	東京・武蔵野	浜松開誠館	市立沼津	浜松聖星 / 浜松学院		浜松開誠館2回戦
77	R 6	東京・武蔵野					